

令和7年度

長門市立小中学校のあり方に関する

保護者アンケートの結果について

令和7年9月 長門市教育委員会

1. 調査の概要、回答者の基本情報

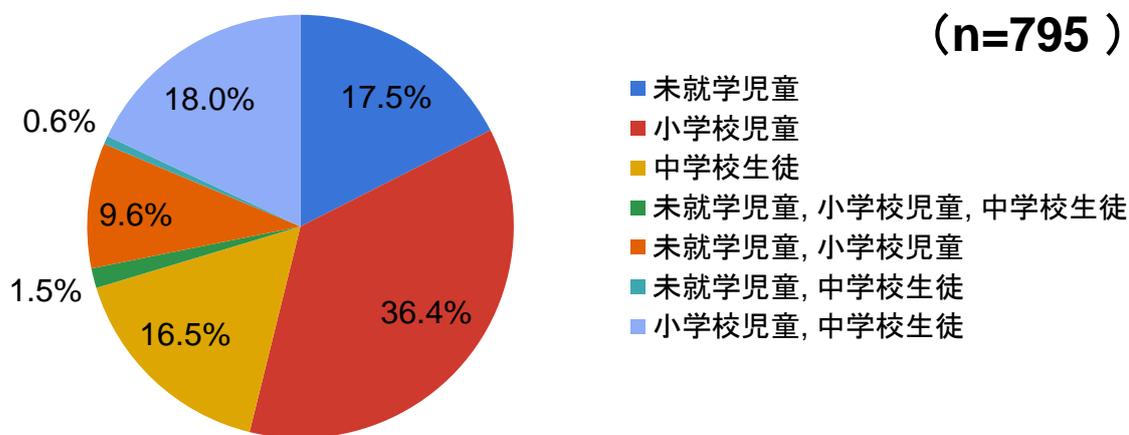
調査の目的：本市においては、児童生徒数の減少により学校の小規模化が進む中、子どもたちにとり適切な教育環境を、将来にわたり確保できるかが大きな課題となっています。

こうしたことから、令和7年度に長門市立小中学校適正規模・適正配置審議会を設置し、今後の学校のあり方や学校の適正規模・適正配置についての検討を開始したところです。保護者の皆様が考える学校の役割や望ましい学校の規模等について幅広くご意見を伺い、審議会における検討の基礎資料とします。

対 象	小中学校児童生徒及び未就学児の保護者 1,443世帯
回 答 数	795件（回答率 55.1%）
調査方法	Webアンケートシステム「Googleフォーム」による調査（匿名回答）
周知方法	小中学校の保護者・・・学校を通じてアンケート依頼文書を配布 未就学児のみの保護者・・・郵送
調査期間	令和7年7月18日～令和7年8月5日

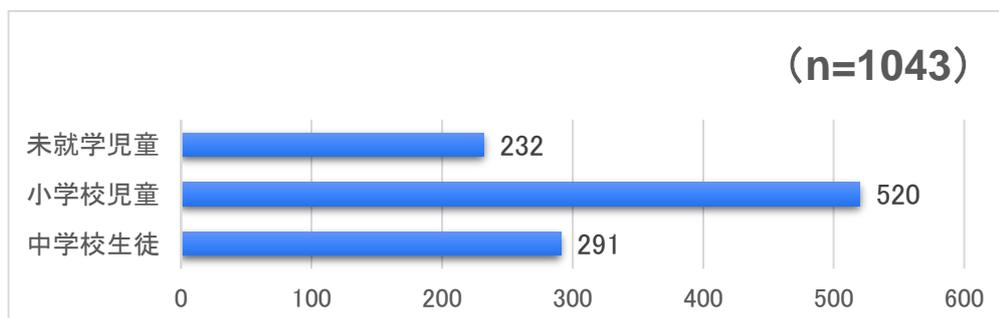
1-2. 回答者の基本的事項(問1、問2)

問1 お子さんについて、該当するものをすべてお選びください。(複数選択可)



区分	回答数	割合
未就学児童	139	17.5%
小学校児童	289	36.4%
中学校生徒	131	16.5%
未就学児童, 小学校児童, 中学校生徒	12	1.5%
未就学児童, 小学校児童	76	9.6%
未就学児童, 中学校生徒	5	0.6%
小学校児童, 中学校生徒	143	18.0%
	795	

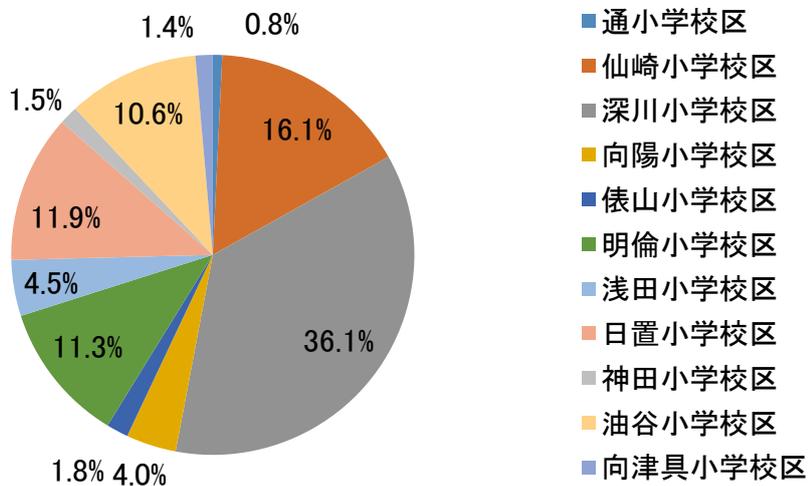
■未就学児、小学校児童、中学校生徒ごとの数



問2 お住いの地区の校区を、小学校・中学校それぞれお答えください。

(1)小学校区

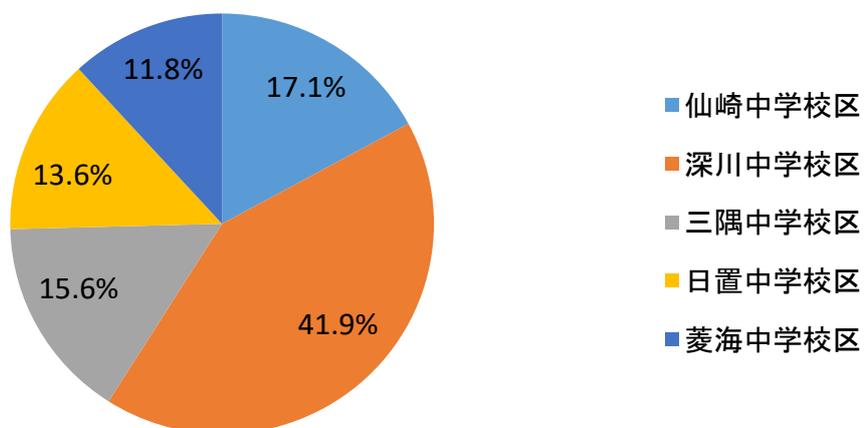
(n= 795)



校区	回答数	全体に対する割合
通小学校区	6	0.8%
仙崎小学校区	128	16.1%
深川小学校区	287	36.1%
向陽小学校区	32	4.0%
俵山小学校区	14	1.8%
明倫小学校区	90	11.3%
浅田小学校区	36	4.5%
日置小学校区	95	11.9%
神田小学校区	12	1.5%
油谷小学校区	84	10.6%
向津具小学校区	11	1.4%
計	795	

(2) 中学校区

(n= 795)

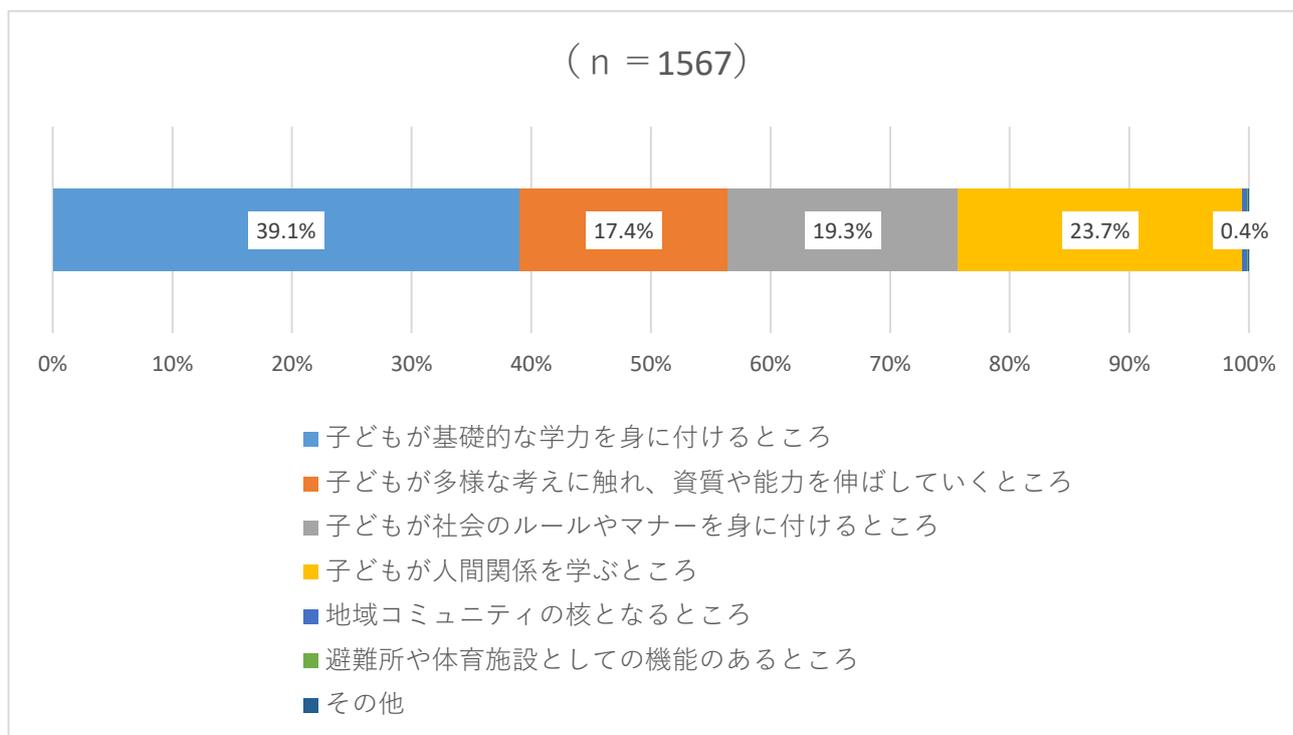


校区	回答数	全体に対する割合
仙崎中学校区	136	17.1%
深川中学校区	333	41.9%
三隅中学校区	124	15.6%
日置中学校区	108	13.6%
菱海中学校区	94	11.8%
計	795	

2. 学校のあり方について（問3～問6）

2-1. 学校の役割に対する認識(問3)

問3 小・中学校はどのようなところであるとお考えですか。(近いものを2つまでお選びください。)

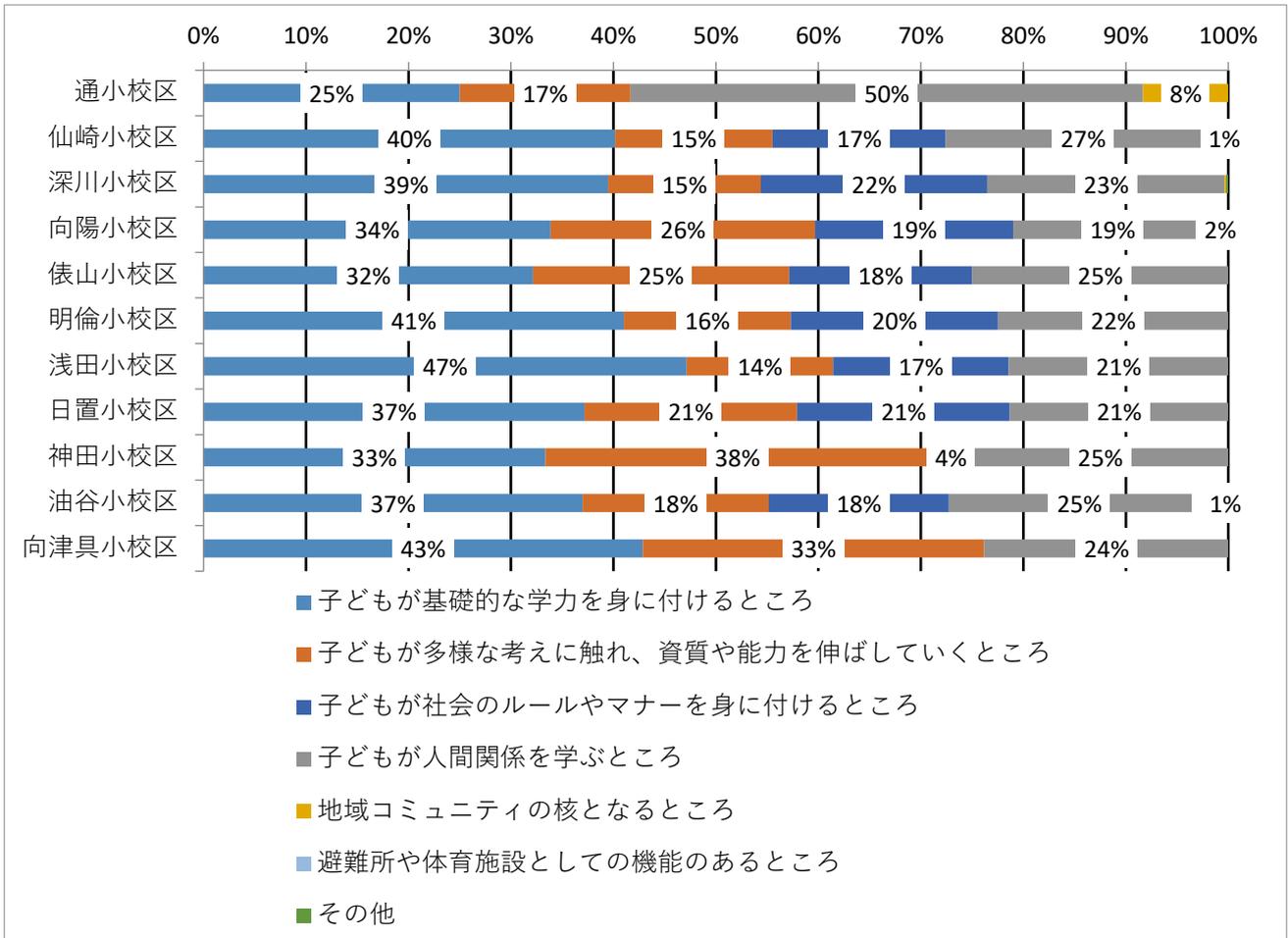


選択肢	回答数	割合
子どもが基礎的な学力を身に付けるところ	612	39.1%
子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ	272	17.4%
子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ	302	19.3%
子どもが人間関係を学ぶところ	372	23.7%
地域コミュニティの核となるところ	7	0.4%
避難所や体育施設としての機能のあるところ	1	0.1%
その他	1	0.1%
	1,567	

最も多く選択された項目は、『子どもが基礎的な学力を身に付けるところ』であり、保護者が学校教育の最も重要な基盤として学力向上を強く期待していることが分かります。

一方で、『人間関係を学ぶ』『社会のルールやマナーを身に付ける』といった項目も多くの支持を集めました。このことから、学校には単なる学力向上だけでなく、子どもたちが社会で自立していくための社会性や倫理観を育む役割も同様に期待されていることがうかがえます。

●小学校区ごと

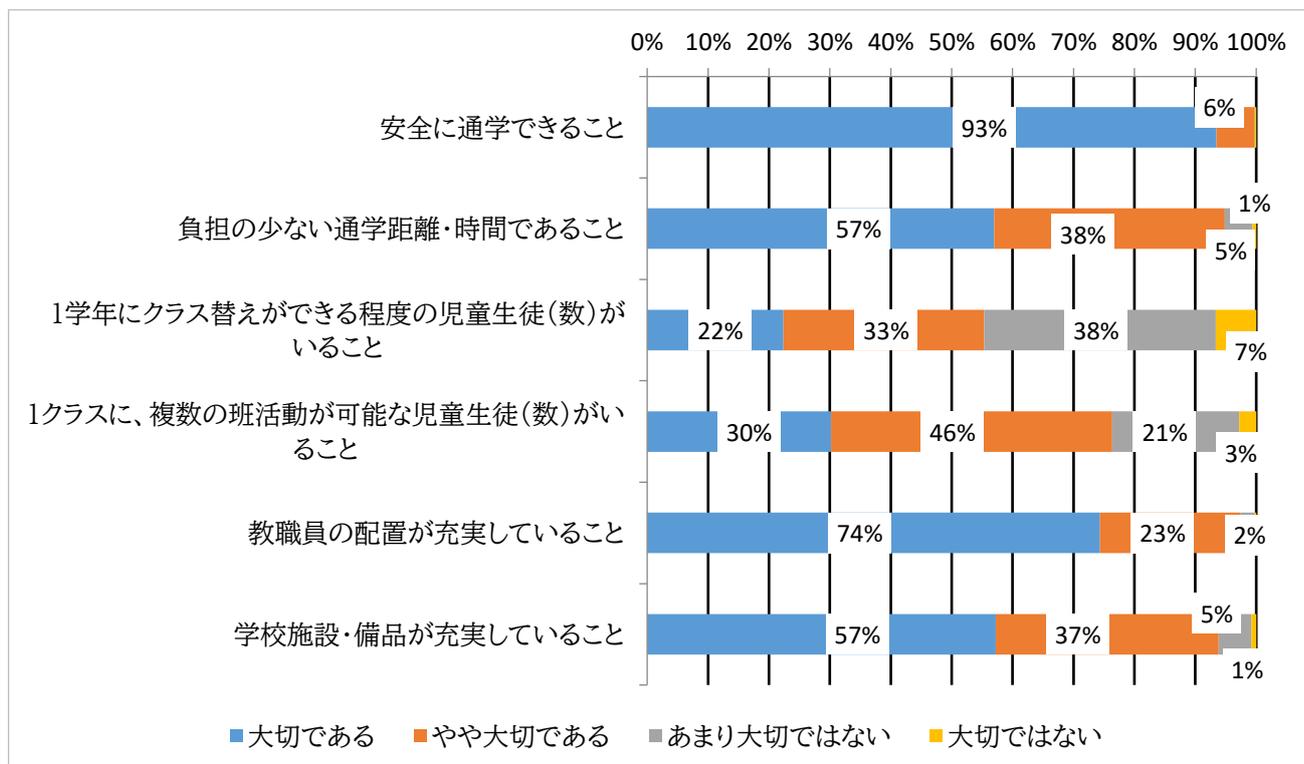


お住まいの小学校区ごとでは、割合に若干の違いがあるものの、多くの地区で『子どもが基礎的な学力を身に付けるところ』が最も多く選択され、全体と同様の傾向を示しました。

一方で、通、俵山、神田、向津具地区においては、『学力』を選択する保護者の割合は高いものの、『人間関係を学ぶ』『社会のルールやマナーを身に付ける』『多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばす』といった項目も『学力』と同程度選択されており、他の地区とは若干異なる傾向を示しています。

2-2. 学校のあり方を検討する上で重視すること(問 4)

問 4 これからの学校について検討していく上で、大切だと思うことは何ですか。



項目	選択肢	個数	割合
安全に通学できること	大切である	743	93.5%
	やや大切である	49	6.2%
	あまり大切ではない	1	0.1%
	大切ではない	2	0.3%
負担の少ない通学距離・時間であること	大切である	453	57.0%
	やや大切である	301	37.9%
	あまり大切ではない	36	4.5%
	大切ではない	5	0.6%
1学年にクラス替えができる程度の児童生徒(数)がいること	大切である	178	22.4%
	やや大切である	262	33.0%
	あまり大切ではない	302	38.0%
	大切ではない	53	6.7%
1クラスに、複数の班活動が可能な児童生徒(数)がいること	大切である	240	30.2%
	やや大切である	367	46.2%
	あまり大切ではない	166	20.9%
	大切ではない	22	2.8%
教職員の配置が充実していること	大切である	591	74.3%
	やや大切である	183	23.0%
	あまり大切ではない	18	2.3%
	大切ではない	3	0.4%

項目	選択肢	個数	割合
学校施設・備品が充実していること	大切である	455	57.2%
	やや大切である	291	36.6%
	あまり大切ではない	43	5.4%
	大切ではない	6	0.8%

『安全に通学できること』と『教職員の配置が充実していること』が特に重要視されており、子どもたちの安全確保と質の高い教育体制へのニーズが非常に高いことがわかります。

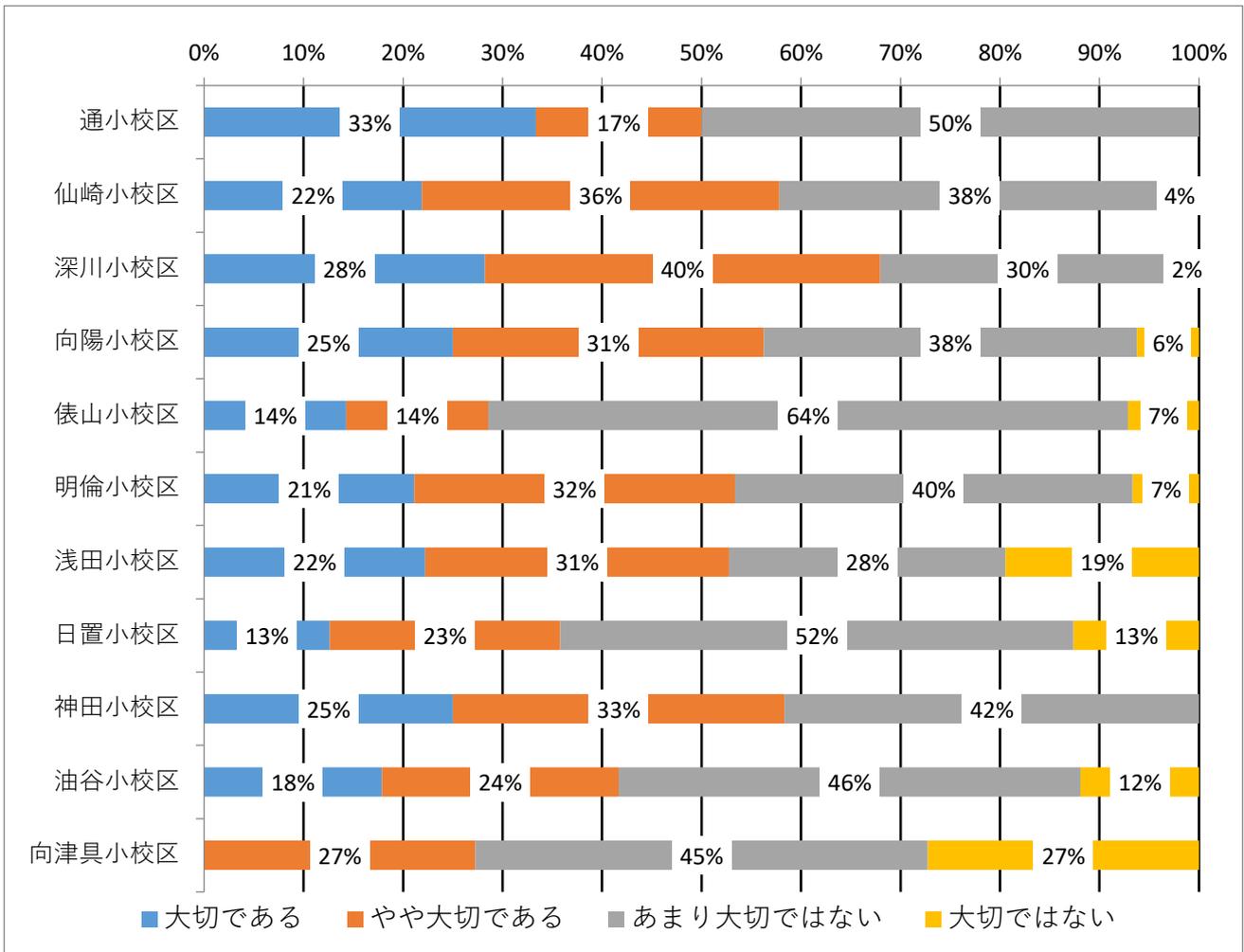
一方で、『1学年にクラス替えができる程度の児童生徒(数)がいること』は、「大切である」「やや大切である」の合計が55%と、他の項目に比べて低く、小規模校の多い本市の現状を踏まえた回答になっていると考えられます。

さらにその一方で、規模についてのもう1つの項目、『1クラスに。複数の班活動が可能な程度の児童生徒(数)がいること』については、「大切である」はそれほど多くないものの、「やや大切である」と合計すれば76%を超える高い割合を示しており、クラスにおいて、ある程度の集団規模が求められていることがうかがえます。

●小学校区ごと

問4の6項目中4項目が、「大切」「やや大切」を合わせて9割を超える高い割合となっていますが、「1学年にクラス替えができる程度の児童生徒(数)がいること」、「1クラスに複数の班活動が可能な児童生徒(数)がいること」の2項目については、他に比べ割合が低かったことから、お住まいの校区での傾向を分析してみました。

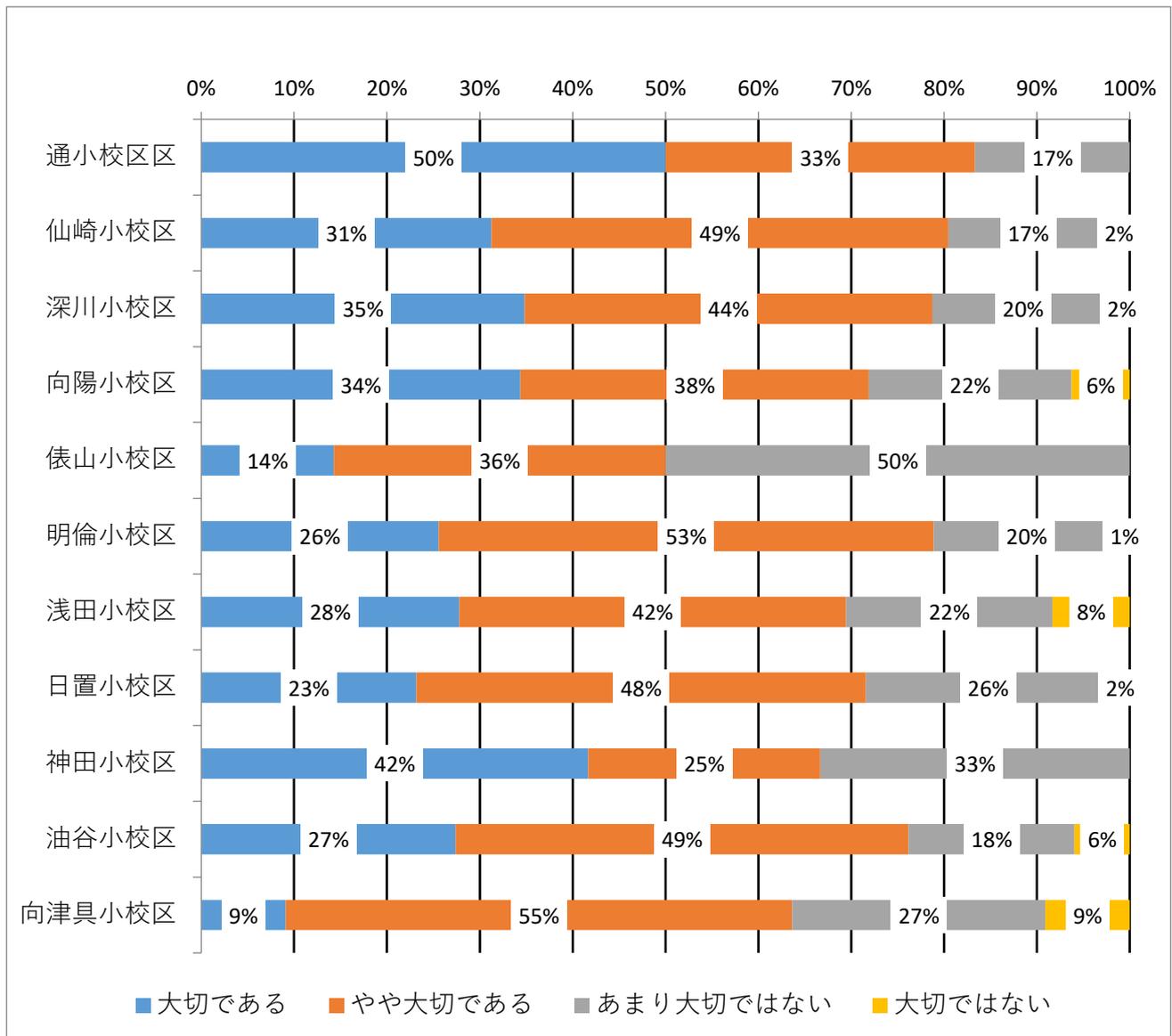
【1学年にクラス替えができる程度の児童生徒(数)がいること】



お住まいの校区ごとで見ると、深川小校区においては、『大切』、『やや大切』を合わせると、7割近くあり、全体で55%程度と比較して、高い割合を示しており、現在の、1学年に複数のクラスがある環境を望ましいと捉えていることが伺えます。

一方で、俵山小、向津具小校区においては、『あまり大切ではない』『大切ではない』の合計が7割を超えており、完全複式である現状からか、単学級を肯定的に捉えていることが示唆されます。

【4】1クラスに、複数の班活動が可能な程度の児童(生徒)数があること



お住まいの校区ごとで見ると、俵山小校区では、『あまり大切ではない』と考える割合が最も高いという結果になりました。

また、通小、仙崎小、深川小、明倫小の各校区において、『大切』、『やや大切』を合わせた割合が、全体の平均を上回る結果となり、通小校区は別として、比較的規模の大きい校区の保護者は、複数の班活動ができる規模であることを重視する傾向にあると言えます。

2-3. 力を入れてほしい教育分野(問 5, 問 6)

問5 小学校では、どのような教育に力を入れてほしいですか。(2つまで選択可。)

問6 中学校では、どのような教育に力を入れてほしいですか。(2つまで選択可。)

小学校、中学校とも、上位2項目は『学力向上』と『よりよい人間関係の形成』ですが、小学校と中学校の比較では、小学校の段階では『よりよい人間関係の形成』が『学力向上』を上回る一方、中学校では『学力向上』へのニーズが他の項目に比べ特に高くなっている点が注目されます。

小学校期が、本格的に集団活動が始まり、社会性の基盤を築く時期であることから、『道德教育』の割合が高いことからもうかがえるように、保護者は、学習面以上に、子どもたちが、他者を思いやる心を養ったり、社会性やコミュニケーション能力を育んだりしながら、周囲とよりよい関係を築いていくことを重視していることがうかがえます。

一方、中学校では高校受験等を意識した学力向上へのニーズの高まりが背景にあると考えられます。また、中学校においては、小学校に比べ『ICT教育』『英語教育』の割合が高くなっており、進路選択や将来を見据えた教育へのニーズがうかがえます。

選択項目 (2つまで選択)	小学校		中学校	
	回答数	割合	回答数	割合
ICT教育	78	5.0%	143	9.2%
英語教育	155	10.0%	214	13.8%
スポーツ、音楽等の芸術	82	5.3%	70	4.5%
伝統や文化に関する教育	70	4.5%	35	2.3%
学力向上	315	20.4%	448	28.9%
小中一貫教育	12	0.8%	11	0.7%
道德教育	231	15.0%	104	6.7%
特別支援教育	28	1.8%	16	1.0%
よりよい人間関係の形成に関する教育	339	21.9%	275	17.8%
多様性を重視した教育	152	9.8%	177	11.4%
地域と連携した教育	72	4.7%	38	2.5%
その他	11	0.7%	18	1.2%
計	1545	100.0%	1549	100.0%

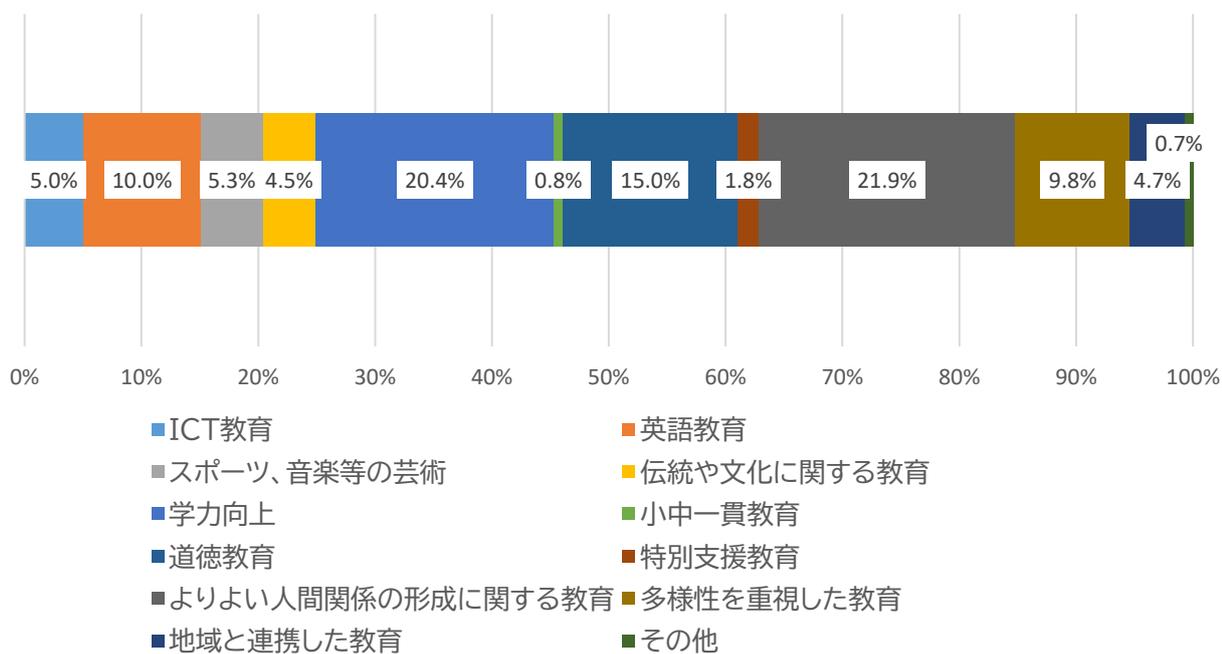
「その他」の回答(小学校)

金融、環境、ディスカッション(人前で話す機会を増やす)、生活力、性(命、人権)教育、メディアリテラシー、基礎学問と体験活動の相乗効果による根元的な学力の向上、自主性をのばせる教育
など

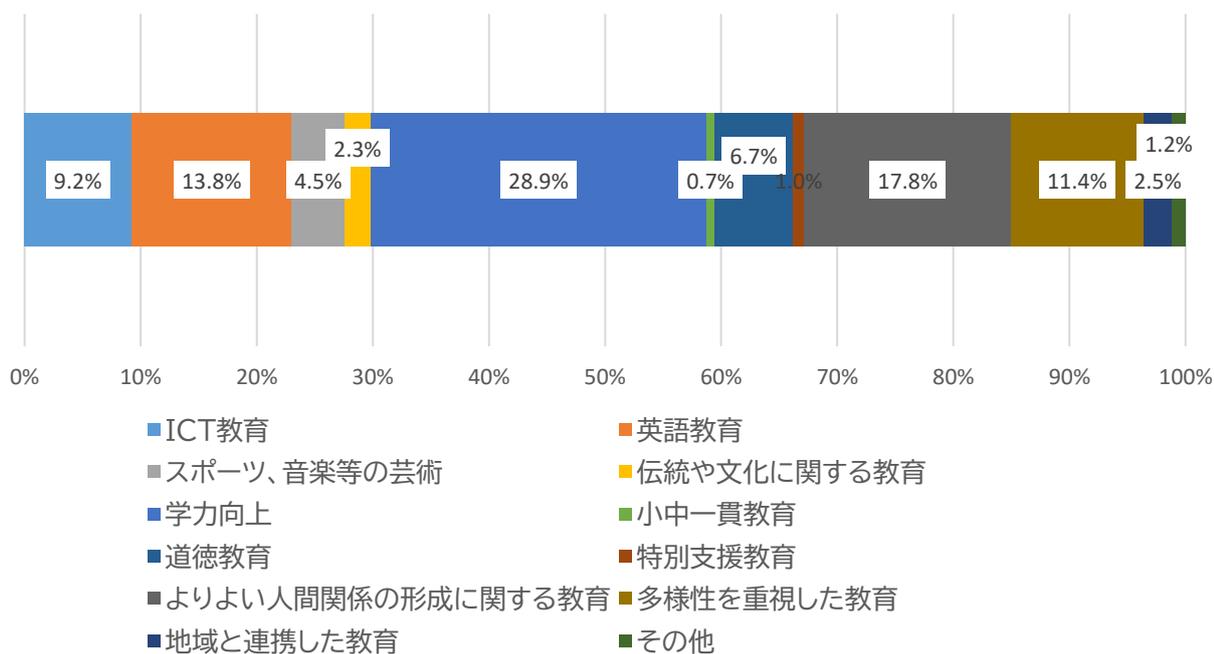
「その他」の回答(中学校)

金融、健康、プレゼン、ディスカッション、将来設計、性(命、人権)教育、政治、SNS、犯罪・いじめ、防災や命を守ることについて
など

小学校(n=1545)



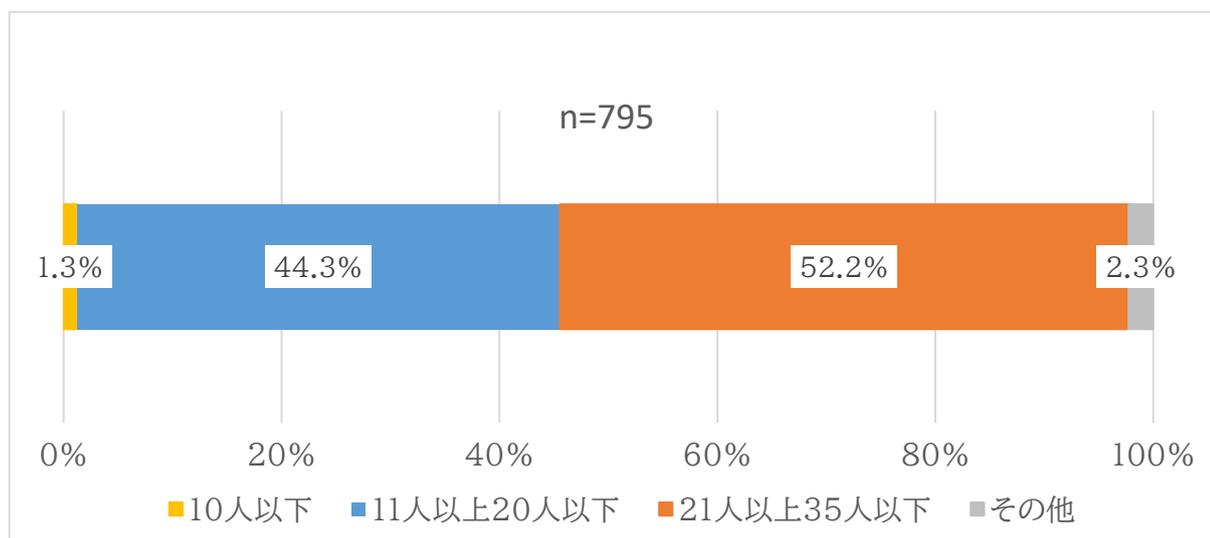
中学校(n=1549)



3. 学校の規模について（問7～問13）

3-1. 望ましいクラス・学年規模（問7, 問8, 問9, 問10）

問7 小学校における教育環境として望ましいと思われる1クラス当たりの児童数は、何人くらいと思いますか。



選択項目	回答数	割合
10人以下	10	1.3%
11人以上20人以下	352	44.3%
21人以上35人以下	415	52.2%
その他	18	2.3%
	795	

■その他の内容	
15人以上25人以下	2
20人、20人程度	2
20人～28人	1
20人以上30人以下	1
20人～25人	3
25人、25人前後	2
25人以下	3
25人以上30人以下	1
30人まで	1
36人以上	1
望ましい人数はない	1
計	18

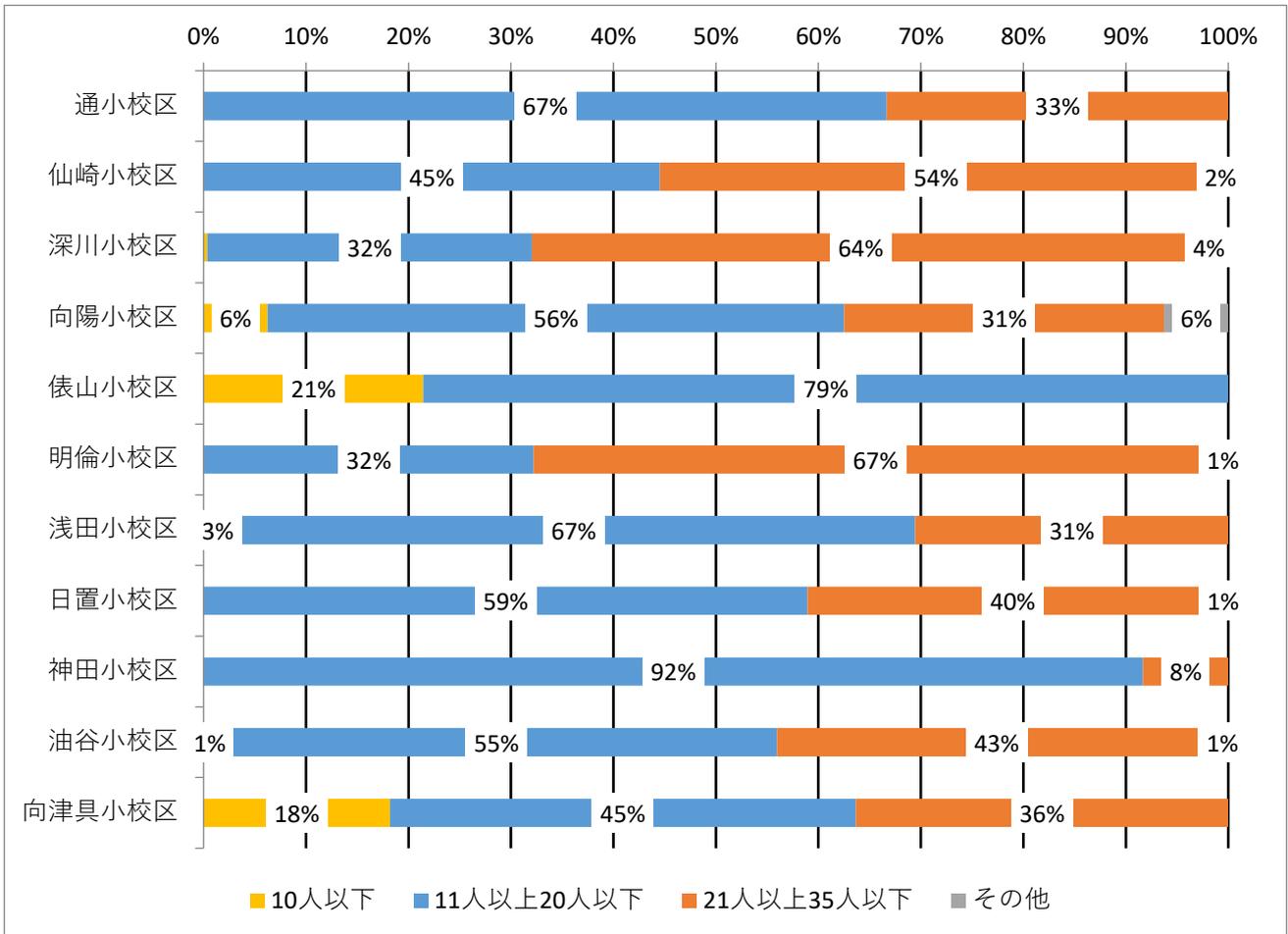
小学校の学級規模については、山口県の標準である35人に対し、『21人以上35人以下』が最も多く、標準規模に近い人数を望む声が多数派であることが分かります。2番目の『11人以上20人以下』も高い割合で選択されています。

また、『その他』を見ると、多くが20人～30人の範囲となっており、上位2項目『11人以上20人以下』『21人以上35人以下』の間をとった回答が多くみられます。

11人～35人と幅はありますが、多くの保護者が、複数の班活動ができる程度の学級規模を望まれていることがうかがえます。

●小学校区ごと

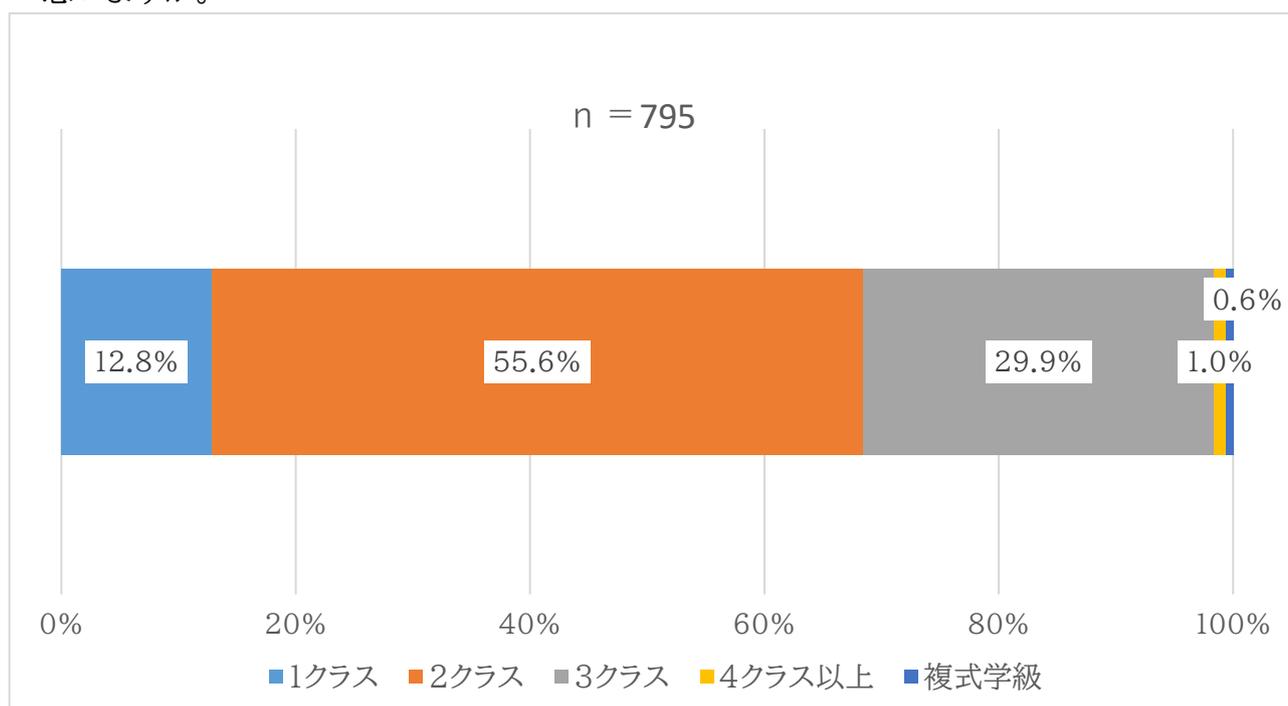
全体では『11人以上20人以下』『21人以上35人以下』が高い割合で選択されていましたが、校区で見たときに違いがあるのか分析してみました。



お住まいの校区ごとで見ると、割合に若干バラつきが見られるものの、概ね『11人以上20人以下』『21人以上35人以下』のいずれかを選択されています。

通、向陽、俵山、浅田、神田、向津具などの小規模校の存在する地区では、20人以下を選択される割合が、比較的學校規模の大きい仙崎や深川地区と比べると高くなっており、標準を大きく下回る20人以下での教育環境を望まれていることがわかります。深川、明倫小校区の保護者は、『21人以上35人以下』の割合が、他地区と比べると高くなり、標準に近い規模での教育環境を望んでいることがうかがえます。

問 8 小学校における教育環境として望ましいと思われる1学年当たりのクラス数は、何クラスと
 思いますか。

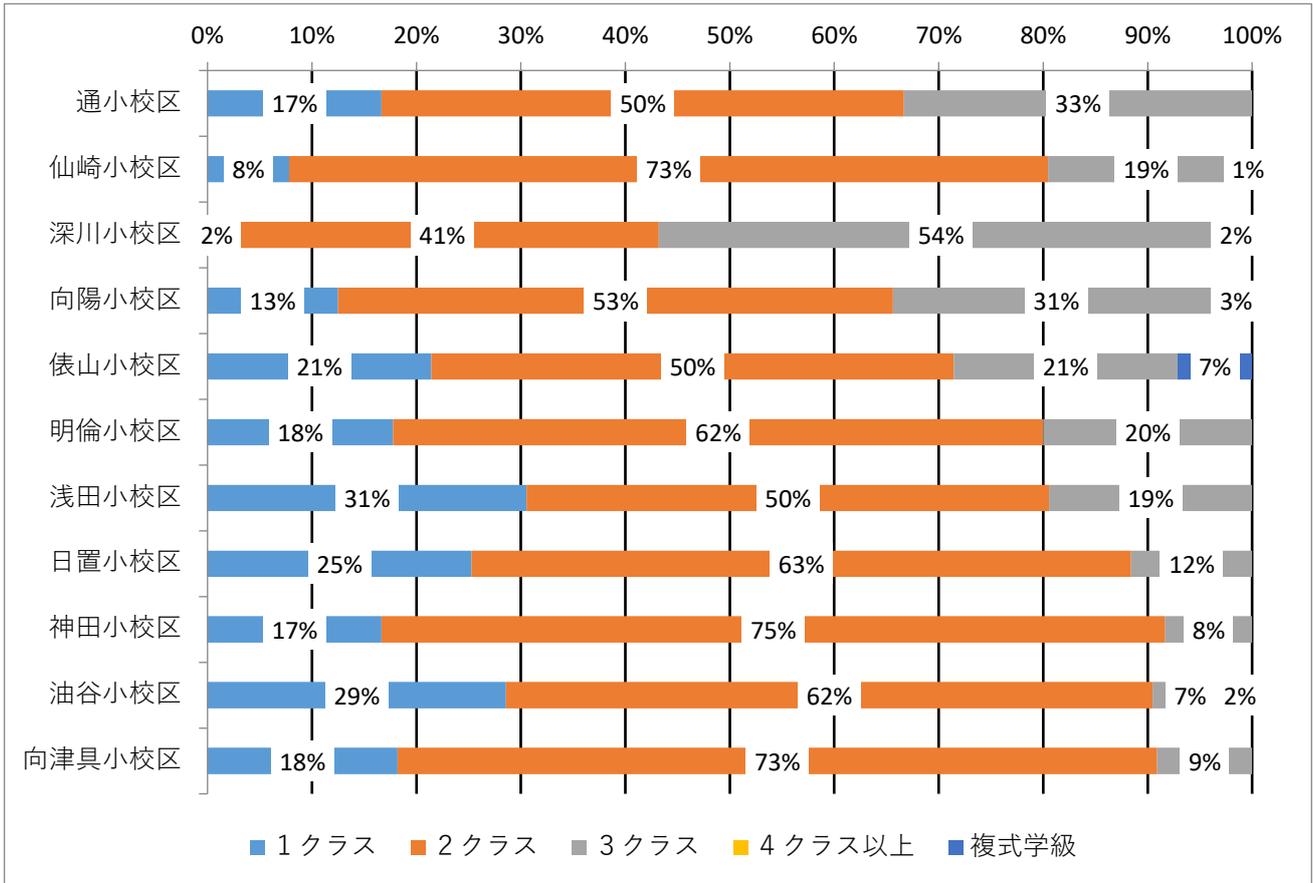


選択項目	回答数	割合
1クラス	102	12.8%
2クラス	442	55.6%
3クラス	238	29.9%
4クラス以上	8	1.0%
複式学級	5	0.6%
計	795	

小学校の学年あたりのクラス数については、国の標準の2クラス以上(『2クラス』や『3クラス』)を望む意見が多数を占め、クラス替えができる規模を望まれる声が多いことがうかがえます。一方で、『1クラス』を希望する回答も1割程度あります。

現在市内の学校の多くが単学級となっていますが、そうした現状を踏まえ、小規模な教育環境に対するニーズも一定程度あることがうかがえます。

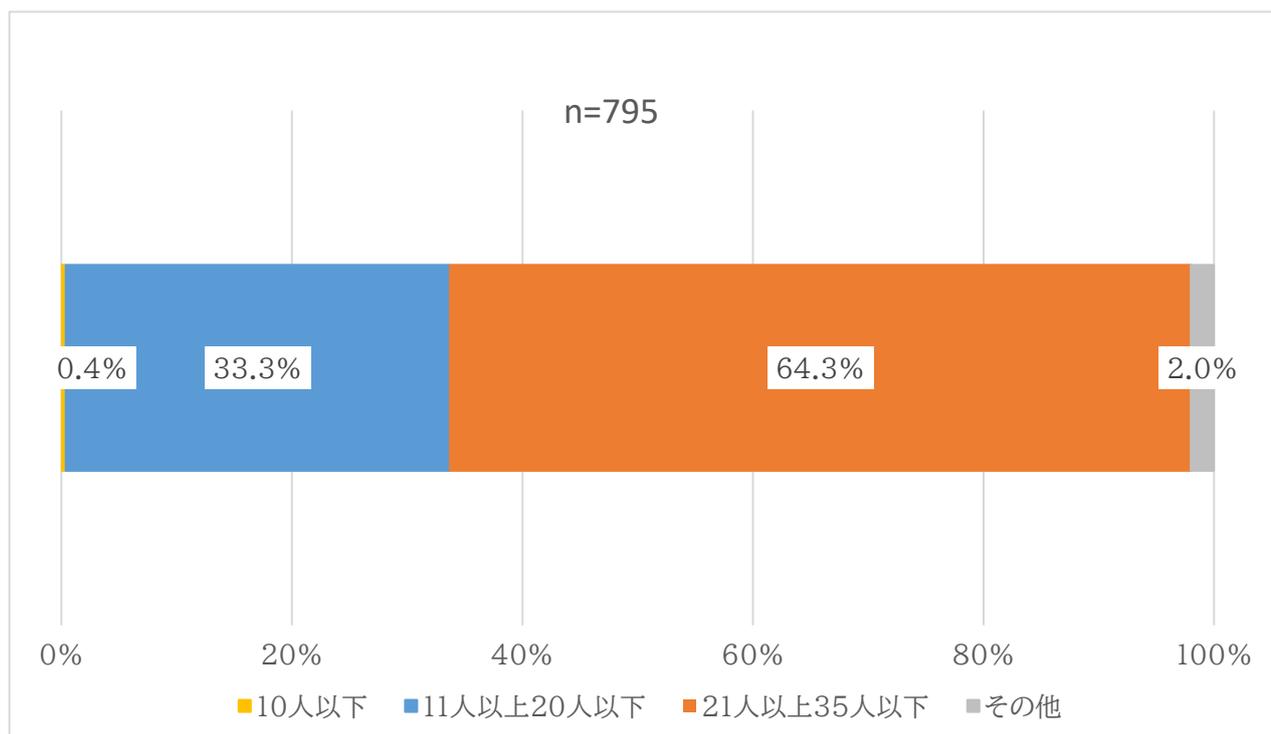
●小学校区ごと



お住まいの校区ごとに見ると、割合に若干バラつきが見られるものの、『2クラス』を選択される保護者が多いことがわかります。通、俵山、浅田、油谷地区の保護者は『1クラス』を選択される割合も高くなっています。

一方で、深川地区の保護者は、『3クラス』を最も多く選択されていることに加えて、『4クラス以上』を選択される保護者も複数あり、現在の深川小と同程度の、1学年あたり3クラス程度の学校規模が望ましいと考えていることがうかがえます。

問9 中学校における教育環境として望ましいと思われる1クラス当たりの生徒数は、何人くらいだと思いますか。



選択項目	回答数	割合
10人以下	3	0.4%
11人以上20人以下	265	33.3%
21人以上35人以下	511	64.3%
その他	16	2.0%
	795	

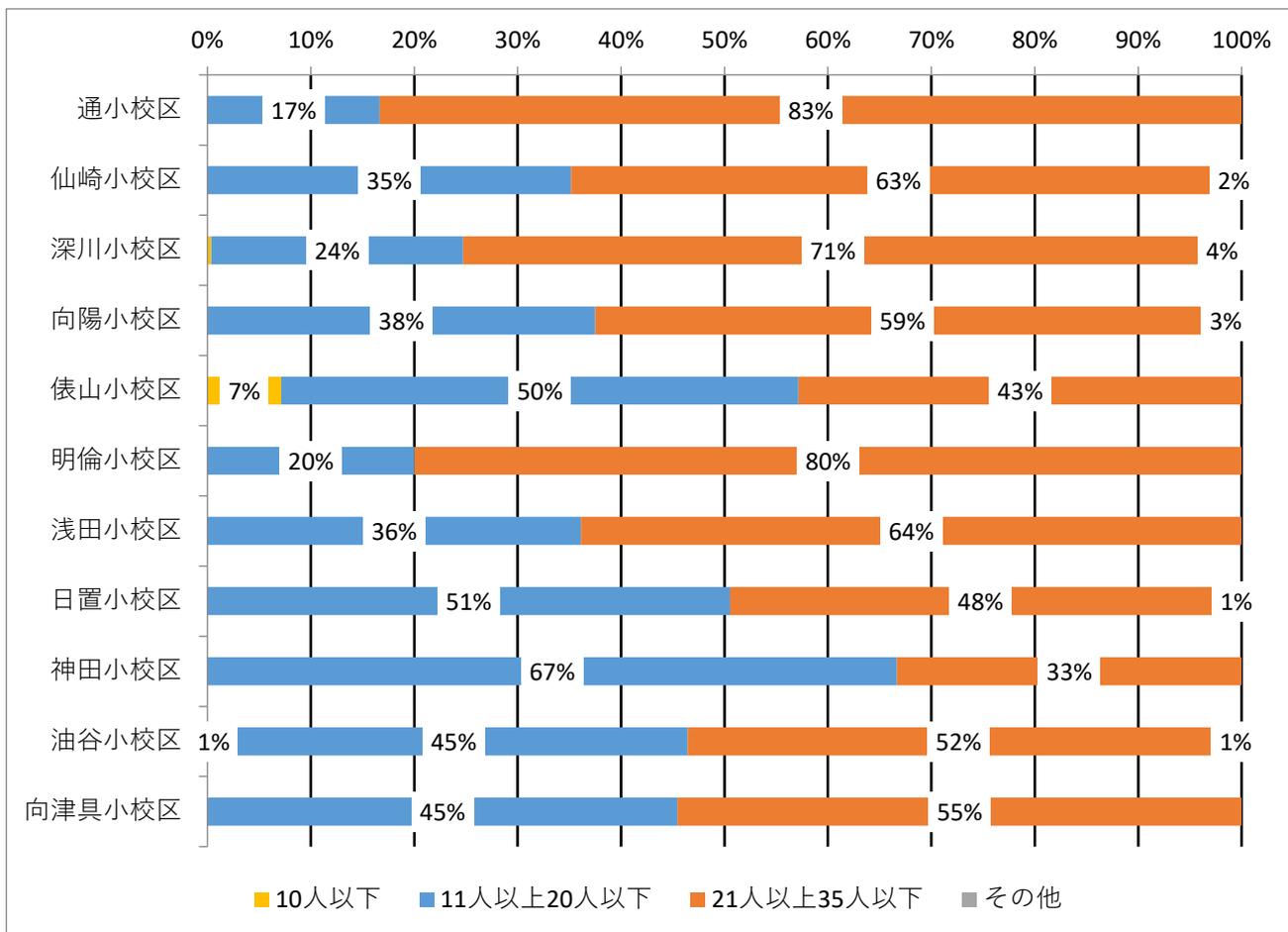
■その他の内容

20人	2
20人以上30人以下	2
20人～25人	2
25人、25人前後	2
25人以下	3
25人以上30人以下	2
30人まで	1
36人以上	1
望ましい人数はない	1
計	16

中学校の学級規模についても、山口県の標準である35人に対し、『21人以上35人以下』が最も多く、小学校同様、標準規模に近い人数を望む声が多数派であることが分かります。

小学校と比較すると、『21人以上35人以下』の割合がより高くなっており、中学校では、小学校よりも規模の大きい教育環境へのニーズが高いことがうかがえます。

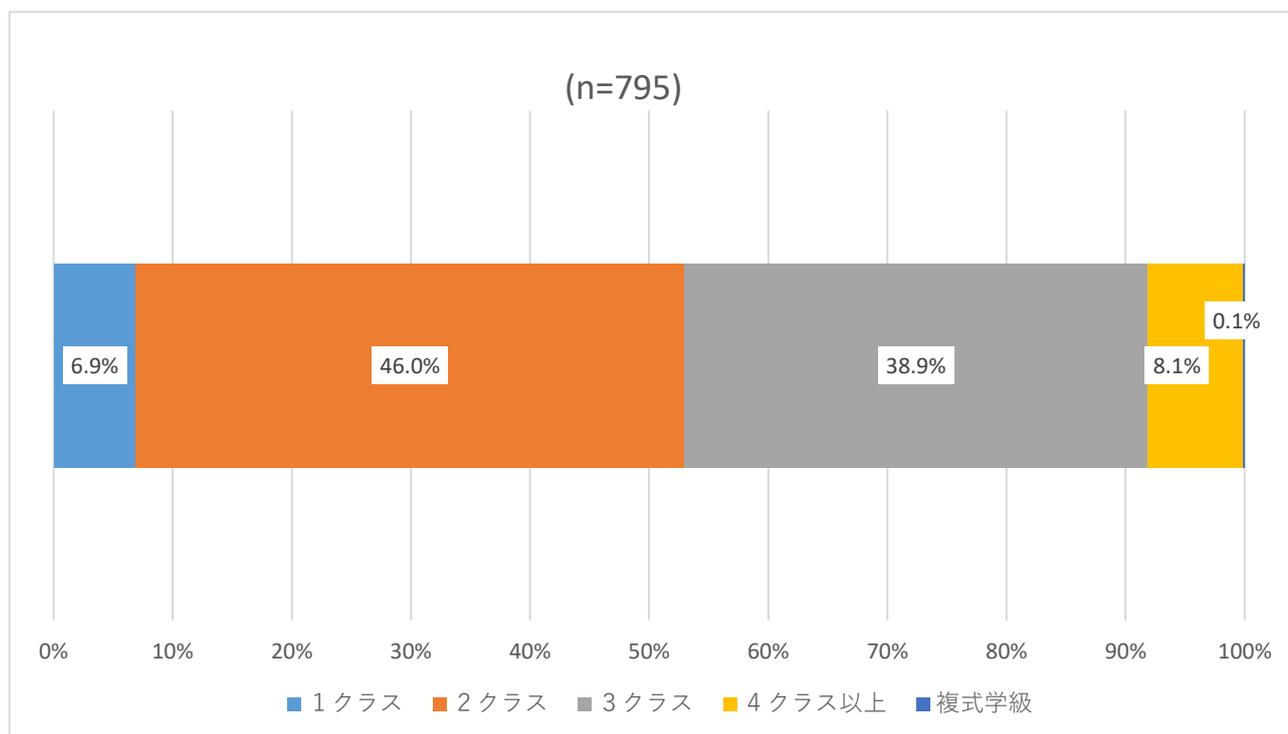
●小学校区ごと



お住いの校区ごとで見ると、割合に若干バラつきが見られるものの、全体の傾向と同様に、概ね『11人以上20人以下』『21人以上35人以下』を選択されています。

ほとんどの地区で、全体の平均と同様、『21人以上35人以下』が最も選択されていますが、俵山、日置、神田小校区においては、『11人以上20人以下』の割合が『21人以上35人以下』と同等か、上回っており、中学校であっても小規模な環境での学びへのニーズがうかがえます。

問10 中学校における教育環境として望ましいと思われる1学年当たりのクラス数は、何クラスとと思いますか。

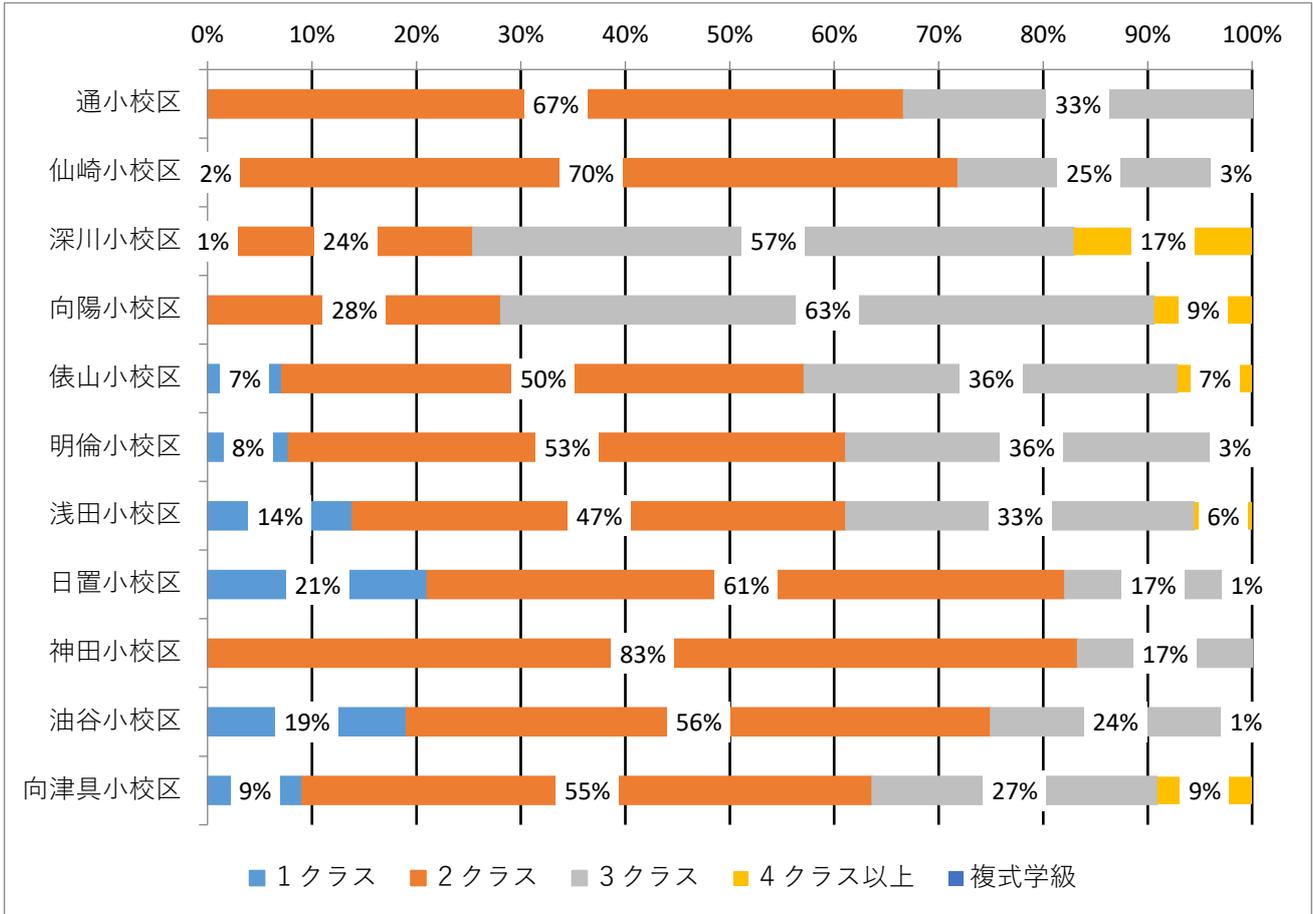


選択項目	回答数	割合
1クラス	55	6.9%
2クラス	366	46.0%
3クラス	309	38.9%
4クラス以上	64	8.1%
複式学級	1	0.1%
計	795	

中学校のクラス数についても、国標準の2クラス以上を望む意見が多数を占め、小学校同様クラス替えができる規模を望まれる声が多いことがうかがえます。

また、小学校では『4クラス以上』は1.0%とごく少数でしたが、中学校では8.1%に上っており、ある程度の規模感をもった教育環境へのニーズが高いと考えられます。

●小学校区ごと



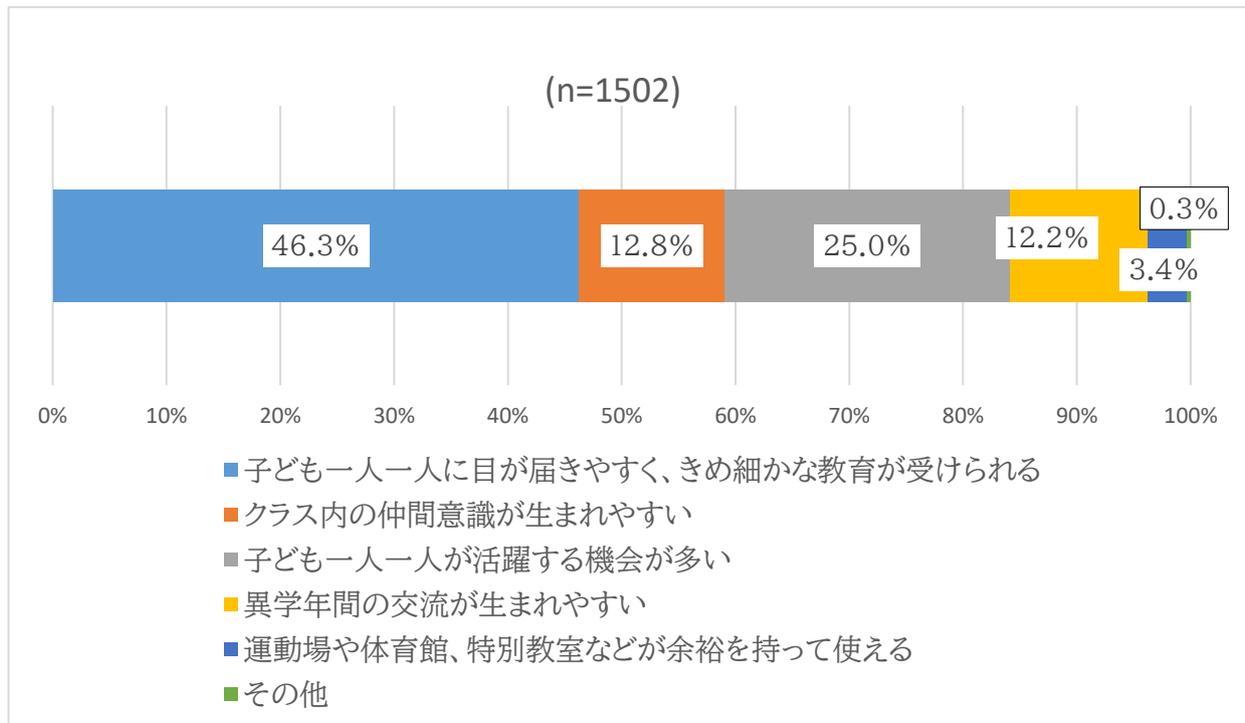
お住まいの校区ごとに見ると、望ましいクラス数として『2 クラス』を選択する保護者が多くの地区で最も多い結果となりました。

一方で、浅田、日置、油谷地区では『1 クラス』を選択する割合も高くなっています。

特に深川地区と向陽地区では、『3 クラス』を望ましいとする回答が最も多く、さらに深川地区では『4 クラス以上』の回答も相当数見られました。このことから、両地区の保護者の多くは、現在の進学先である深川中学校と同規模の、1 学年あたり 3 クラス以上の学校規模を望ましいと考えていることがうかがえます。

3-2. 小規模校のメリット・デメリット(問 11, 問 12)

問 11 小規模校のメリットとして、次のようなものが挙げられますが、このうちメリットが大きいと思われるものをお答えください。(あてはまるもの2つまで)



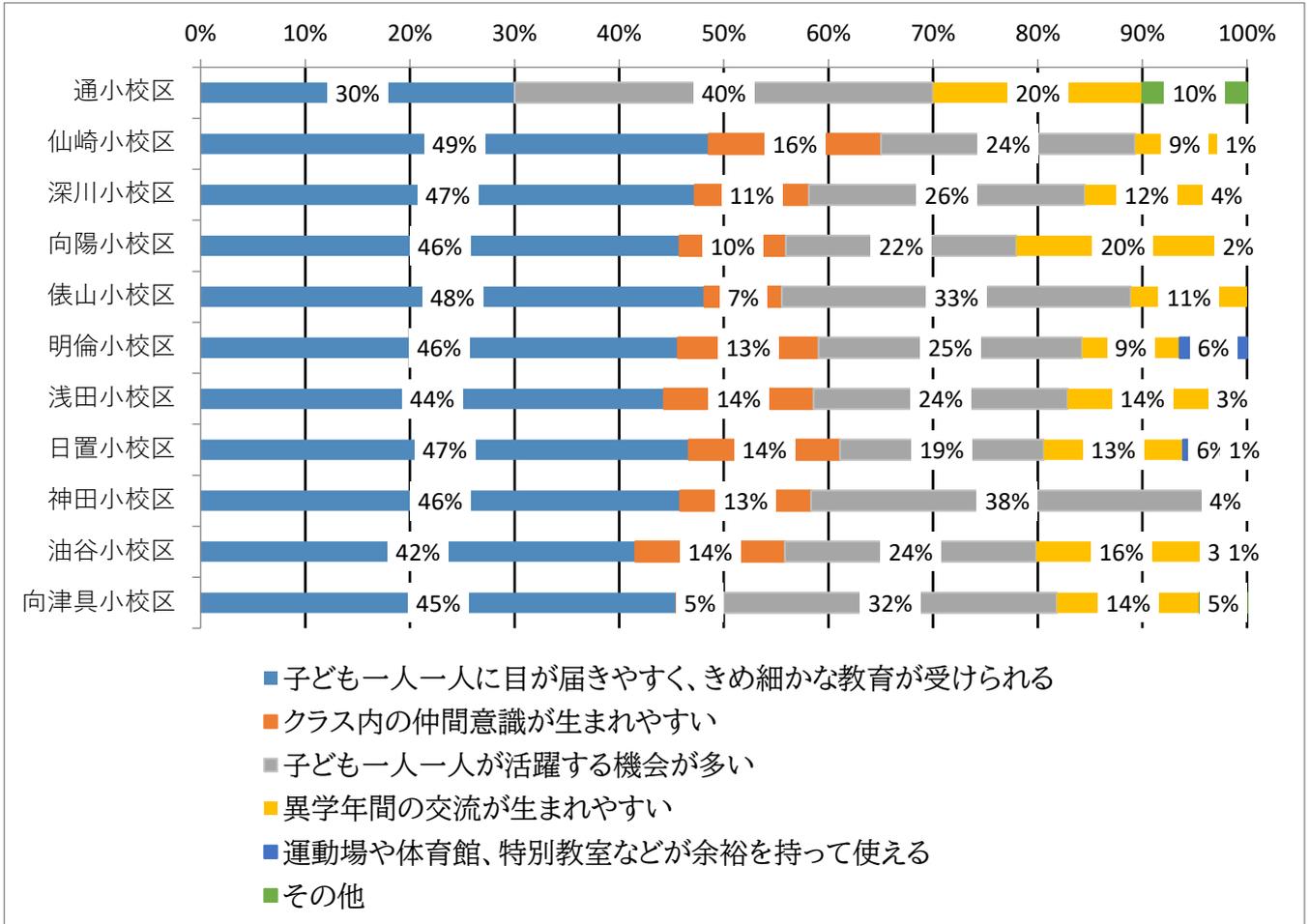
選択肢	回答数	割合
子ども一人一人に目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる	695	46.3%
クラス内の仲間意識が生まれやすい	192	12.8%
子ども一人一人が活躍する機会が多い	376	25.0%
異学年間の交流が生まれやすい	183	12.2%
運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える	51	3.4%
その他	5	0.3%
計	1502	

「その他」の回答

- ・自分から行動する力が身に付く・・・1
- ・保護者が他地域と交流を持たせようとする(クラブチーム加入など)インセンティブが働く・・・1
- ・小規模のメリットを感じない・・・2
- ・地域とより密着した取組ができる・・・1

小規模校のメリットとして『きめ細かな教育』が最も支持されました。これは、教員と児童・生徒との距離が近く、個々の個性や学習状況に応じた丁寧な指導が受けられるという、小規模校ならではの利点が強く認識されていることを示唆しています。次に、『子どもの活躍の機会が多い』が選ばれていますが、クラスや学年の人数が少ないため、学校行事や日々の活動において、一人ひとりが重要な役割を担う機会が多くなります。このことから、子どもたちが自信を育み、主体性を発揮できる環境が、小規模校の大きな魅力として評価されていると考えられます。

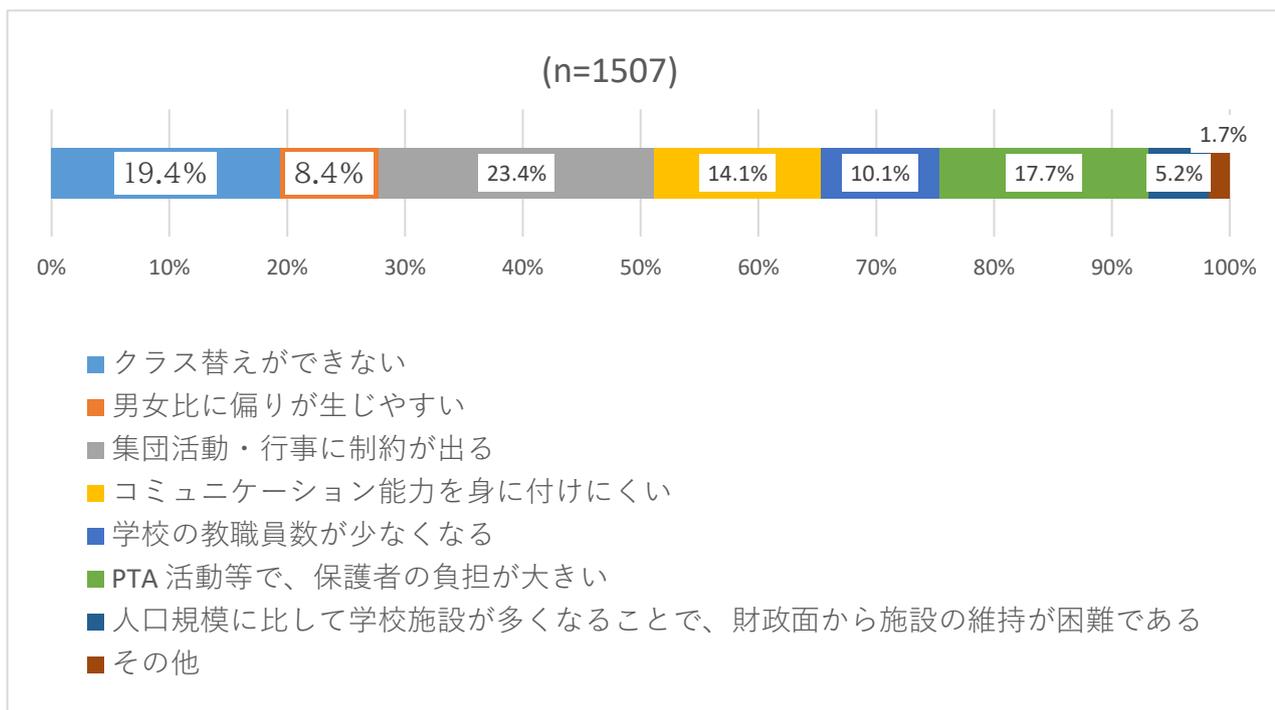
●小学校区ごと



お住まいの校区ごとに見ても、全体と同様に、『きめ細かな教育』を支持する保護者が多くの地区で最も多い結果となりました。

通地区においては、『活躍する機会が多い』ことが第1位となっています。鯨唄の取組が盛んな地域であり、また、地域で発表する機会も多いことが原因として推測されます。

問 12 小規模校のデメリットとして、次のようなものが挙げられますが、このうちデメリットが大きいと思われるものをお答えください。(あてはまるものを2つまで)



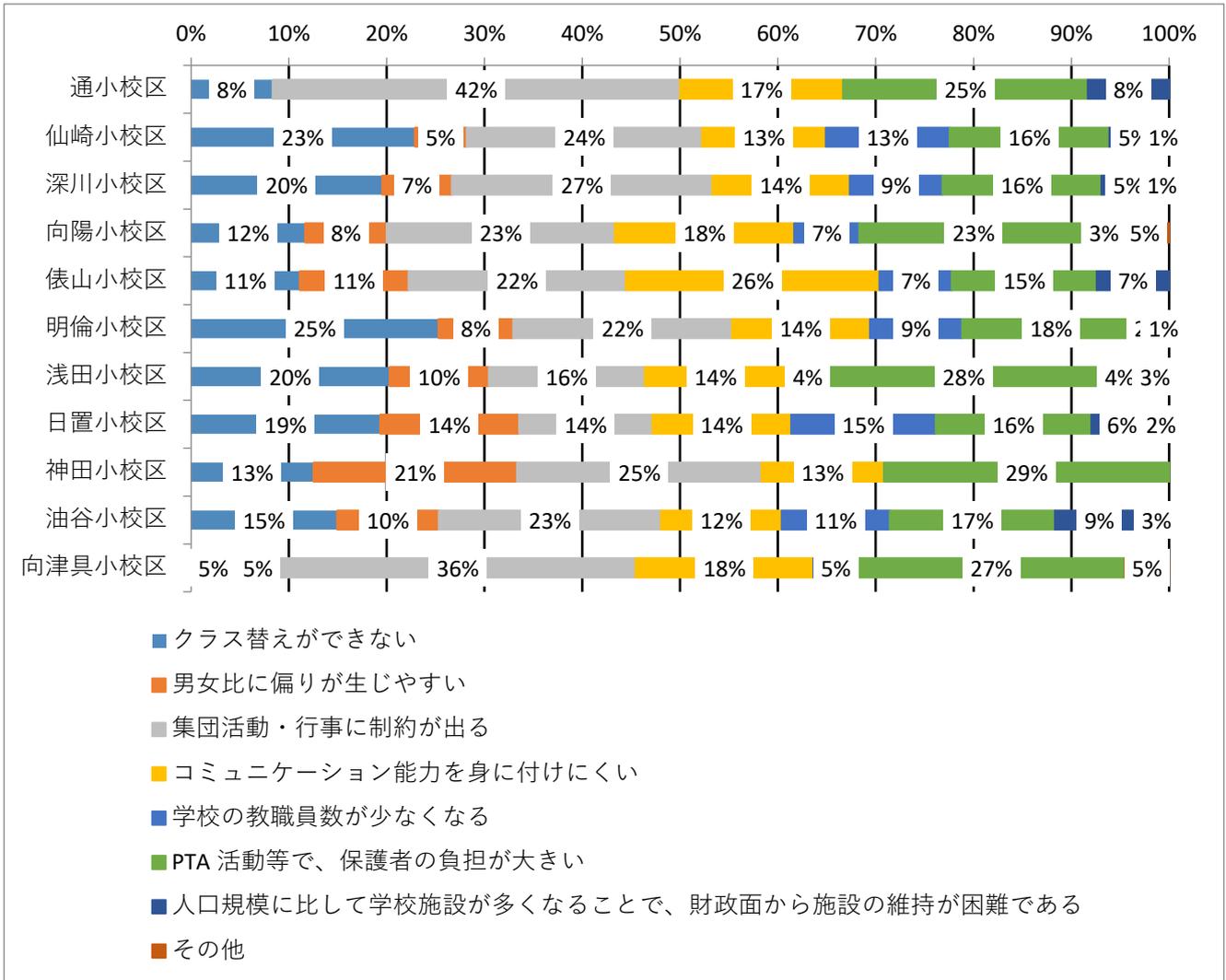
選択肢	回答数	割合
クラス替えができない	292	19.4%
男女比に偏りが生じやすい	127	8.4%
集団活動・行事に制約が出る	352	23.4%
コミュニケーション能力を身に付けにくい	213	14.1%
学校の教職員数が少なくなる	152	10.1%
PTA 活動等で、保護者の負担が大きい	267	17.7%
人口規模に比して学校施設が多くなることで、財政面から施設の維持が困難である	78	5.2%
その他	26	1.7%
計	1507	

「その他」の回答

- ・人間関係の固定化やそれに伴う社会性を育てる機会の不足、コミュニケーション能力等の低下、競争意識の低下 に類する回答・・・10
- ・いじめやトラブルがあったとき逃げ場がない に類する回答・・・13
- ・教員不測の問題・余分な税金がかかること・・・1
- ・複式学級による学力の低下・・・1 自身が少人数だったが特に支障なし・・・1

デメリットでは『集団活動・行事に制約が出る』『クラス替えができない』といった意見が上位に挙がりました。これは、児童生徒が限られた人間関係の中で過ごすことで、多様な価値観に触れる機会や、社会性を育むための集団活動が制約されることへの懸念が大きいことを示しています。また、ついで多かったのが、『PTA 活動の保護者負担』であり、学校の小規模化が進む本市の現状において、PTA の負担が大きくなってきている実態が反映された結果と考えます。

●小学校区ごと



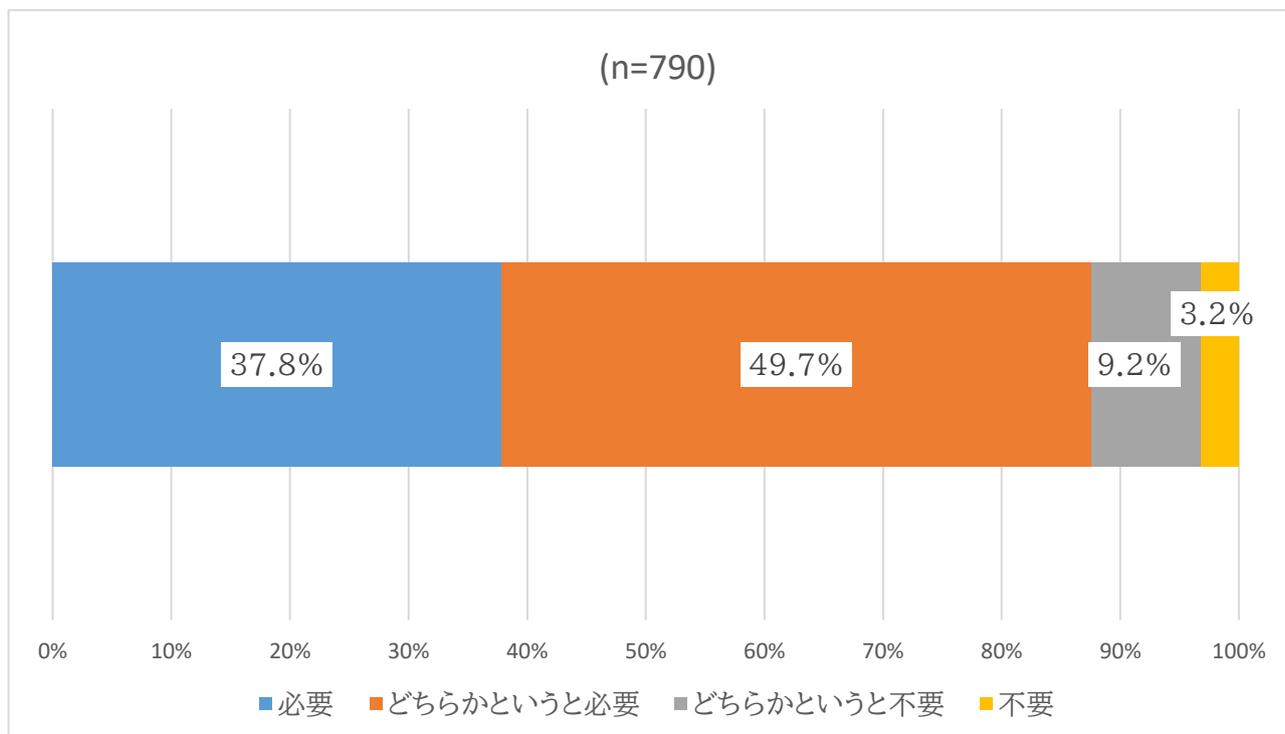
校区ごとの回答には、若干ですが傾向の違いが見られました。『集団活動等に制約がある』は多くの校区で高い割合で選択されていますが、特に小規模校である通、神田、向津具地区でその割合が高くなっています。

さらに、これらの地区では『PTA の負担』も高い割合で選択されています。

これは、小規模校の保護者が日々の学校生活の中で実際に感じているデメリットが、アンケート結果に強く反映されたものと考えられます。

3-3. 学校統合の必要性(問 13)

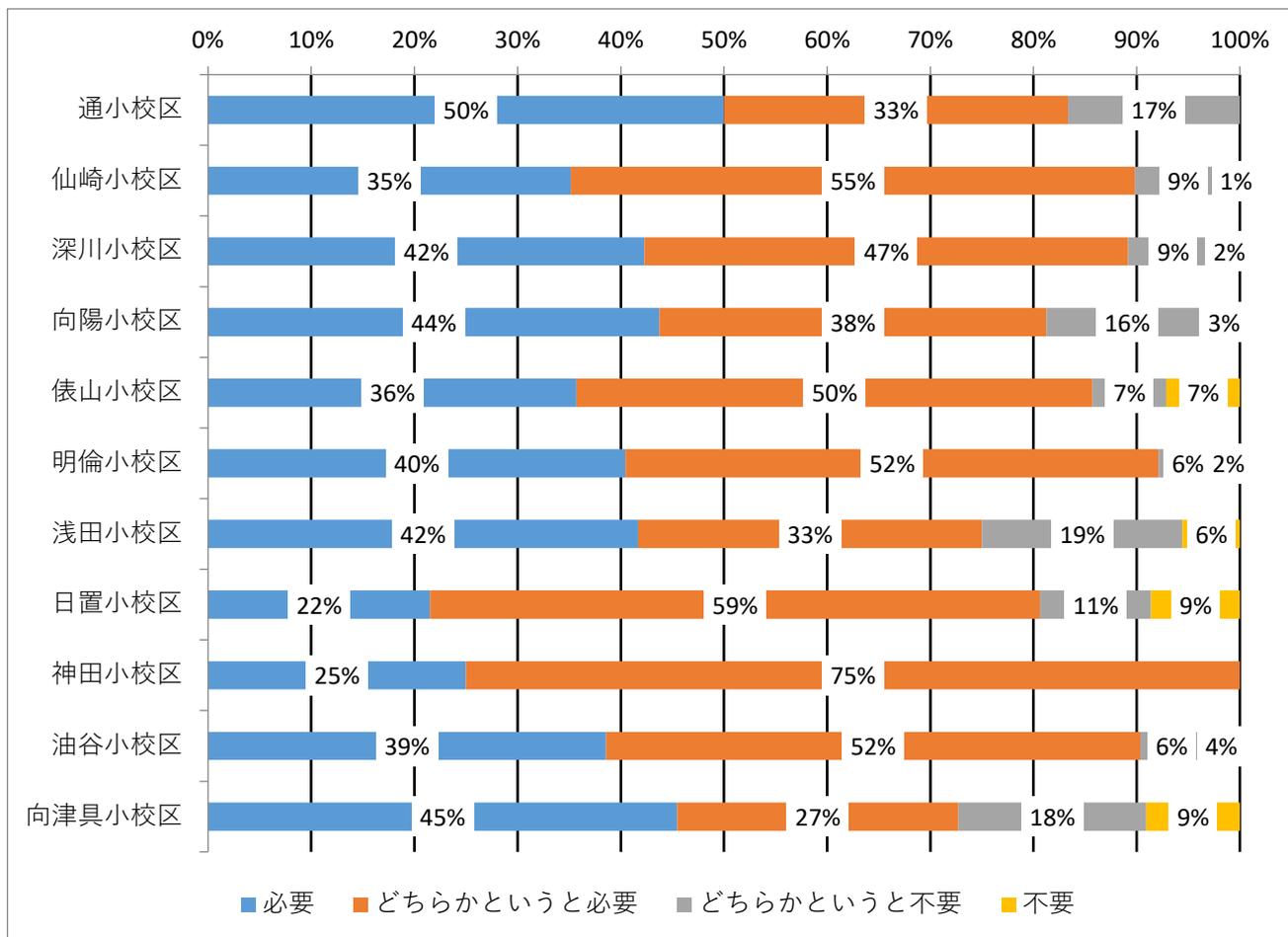
問13 今後さらに児童生徒数の減少が見込まれる中で、小規模校を解消するための方策(学校の統合)は必要だと思いますか。



選択肢	回答数	割合
必要	299	37.8%
どちらかという必要	393	49.7%
どちらかという不要	73	9.2%
不要	25	3.2%
計	790	

『必要』『どちらかという必要』と回答した人が合わせて 87.5%を占めました。この結果から、児童生徒数の減少が進む中で、学校統合を解決策の選択肢の1つと捉えている声が多数派であることがわかります。

●小学校区ごと



校区ごとに見ても、『必要』『どちらかという必要』と考える人の割合は高く、大きな傾向の違いはありませんが、浅田小校区と向津具小校区においては、『どちらかという不要』『不要』と考える人の割合が、他地区と比べ、やや高くなっています。

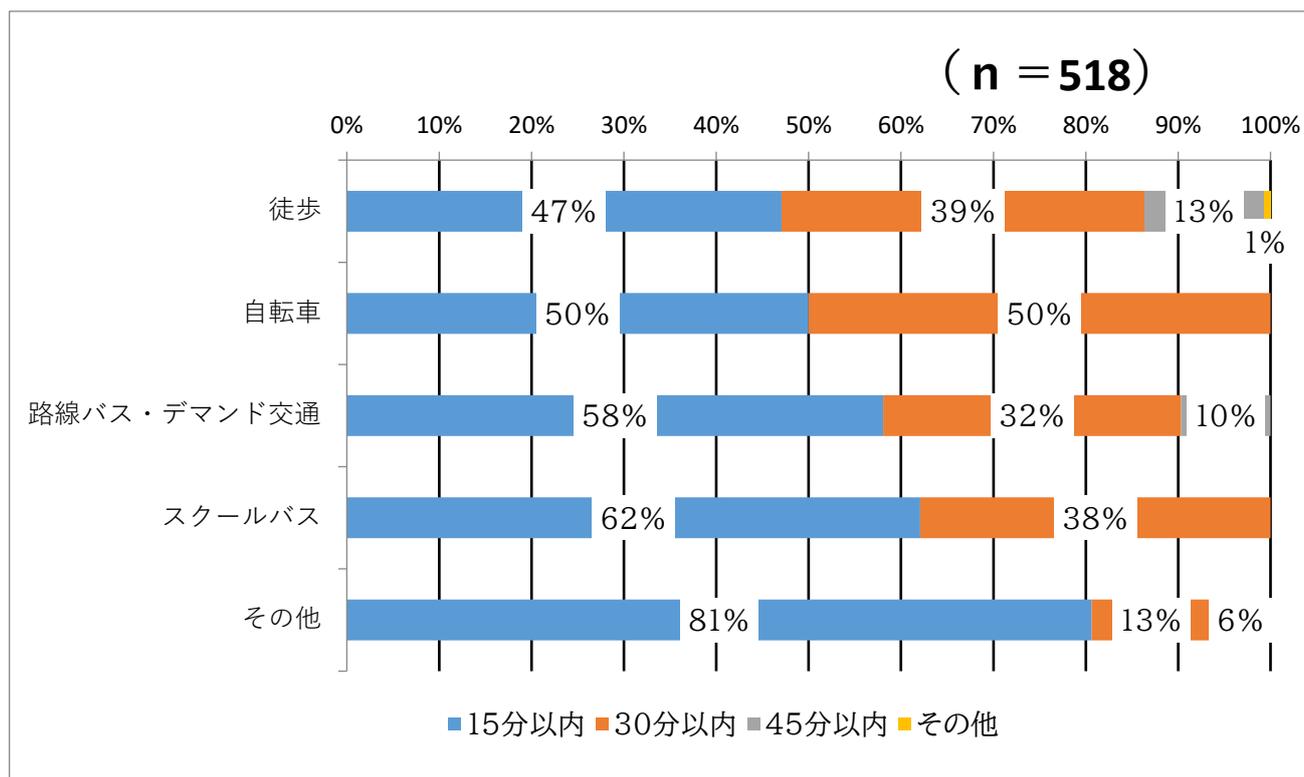
4. 学校の配置（通学距離・時間）について（問14～問19より）

4-1. 現在の通学状況(問14, 問15)

問14 現在の小学生の保護者にお伺いします。現在通学している小学校への通学手段と通学時間を教えてください。

問15 現在の中学生の保護者にお伺いします。現在通学している中学校への通学手段と通学時間を教えてください。

【小学校児童の状況】



学校区	15分以内	30分以内	45分以内	その他	計	割合
徒歩	200	167	55	3	425	82.0%
自転車	1	1			2	0.4%
路線バス・デマンド交通	18	10	3		31	6.0%
スクールバス	18	11			29	5.6%
その他(自家用車、親の送迎)	25	4	2		31	6.0%
計	262	193	60	3	518	

・徒歩の時間「その他」・「50分」「60分以内」「低学年だと1時間ぐらい」

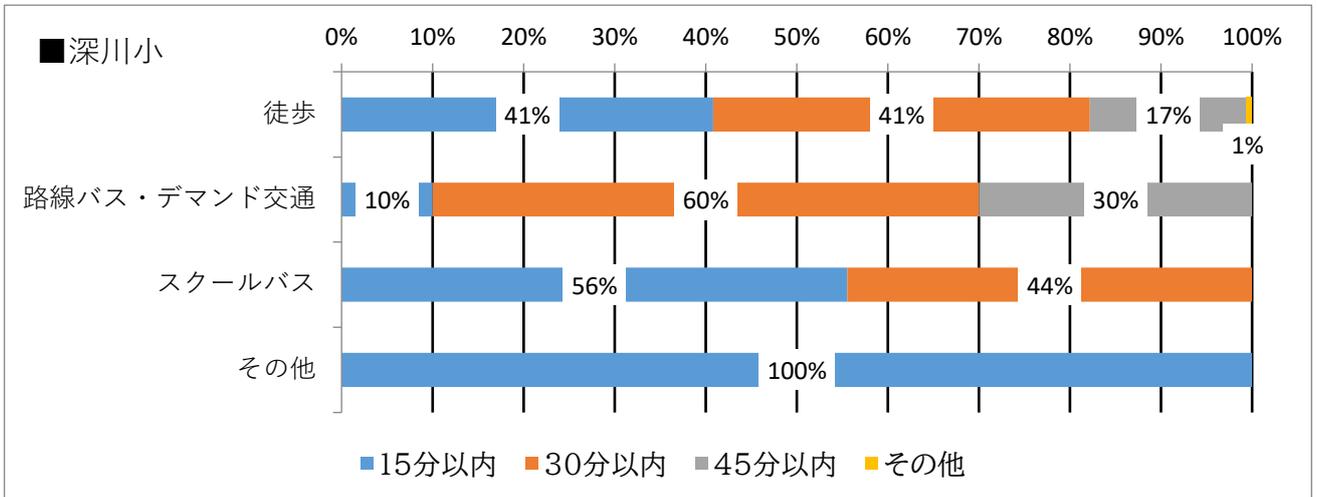
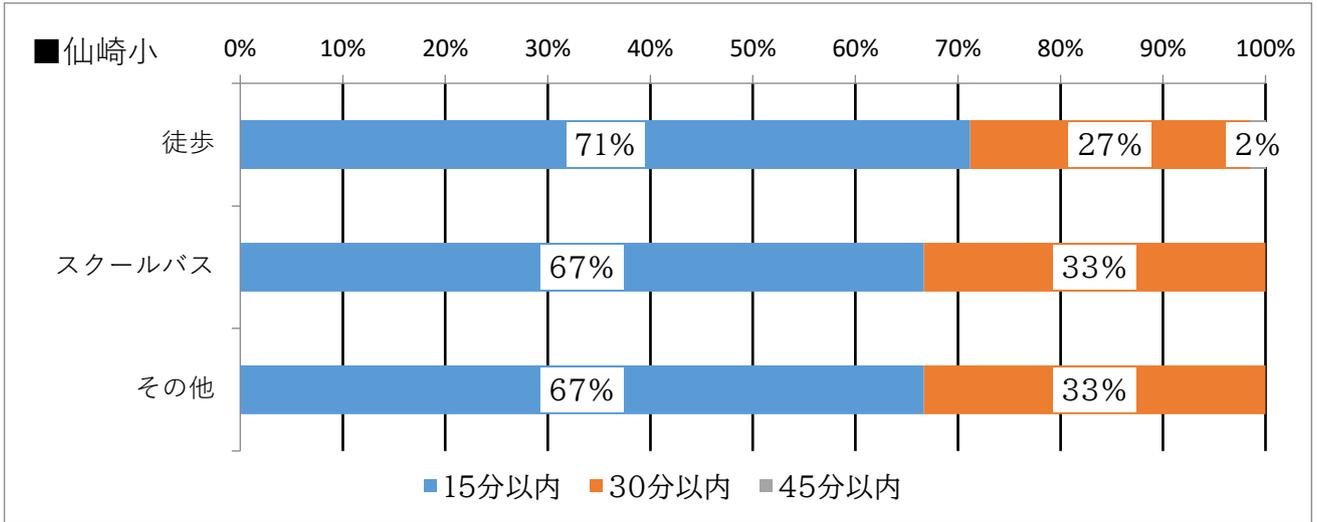
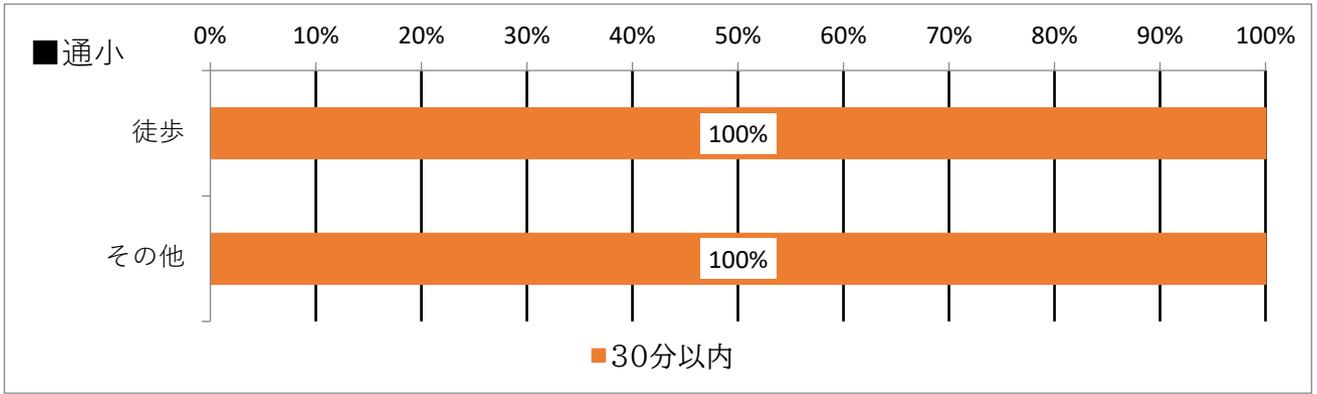
現在の通学手段は『徒歩』が82%と多数派であり、通学時間も『15分以内』と『30分以内』の合計が全体の87%に達するなど、多くの児童・生徒は比較的短時間で通学していることが明らかになりました。一方で、徒歩通学にもかかわらず『45分以内』や1時間程度かかるという回答も少数ながら存在し、通学区域や居住地によっては、通学に負担を抱えている児童もいることが分かりました。

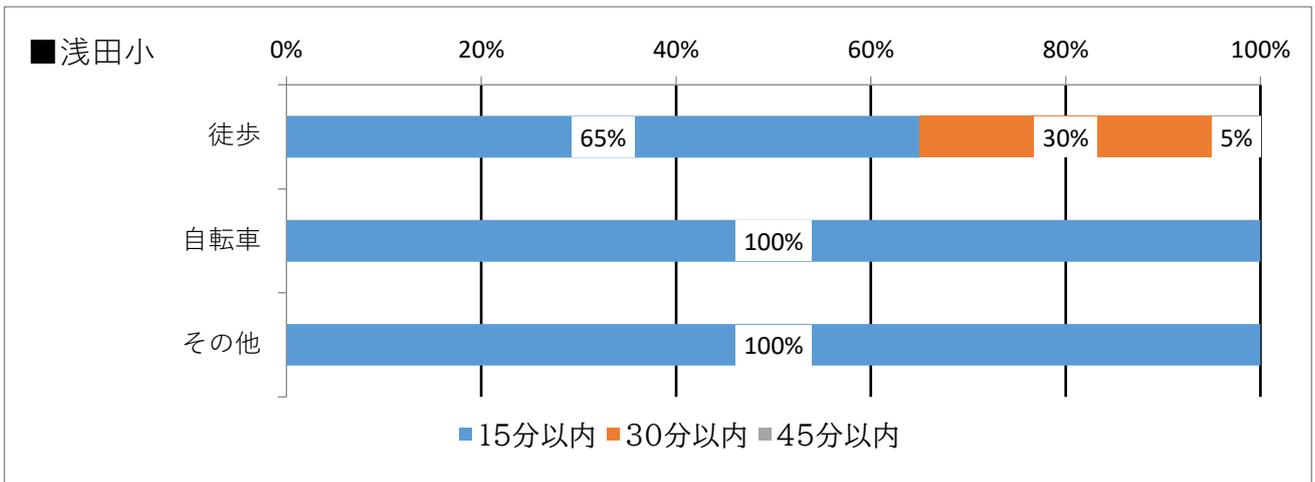
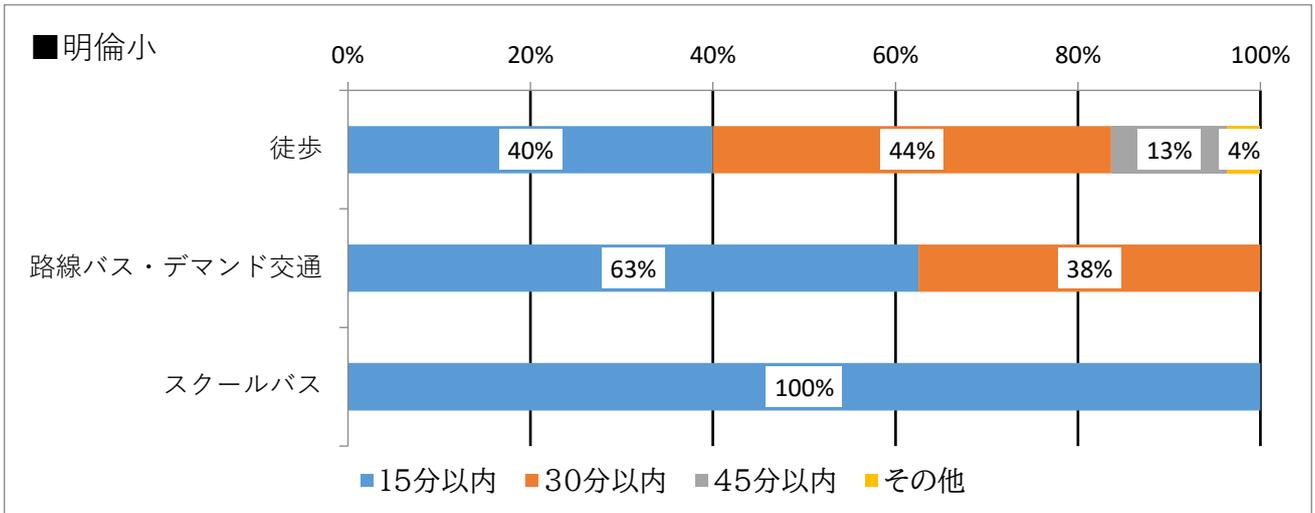
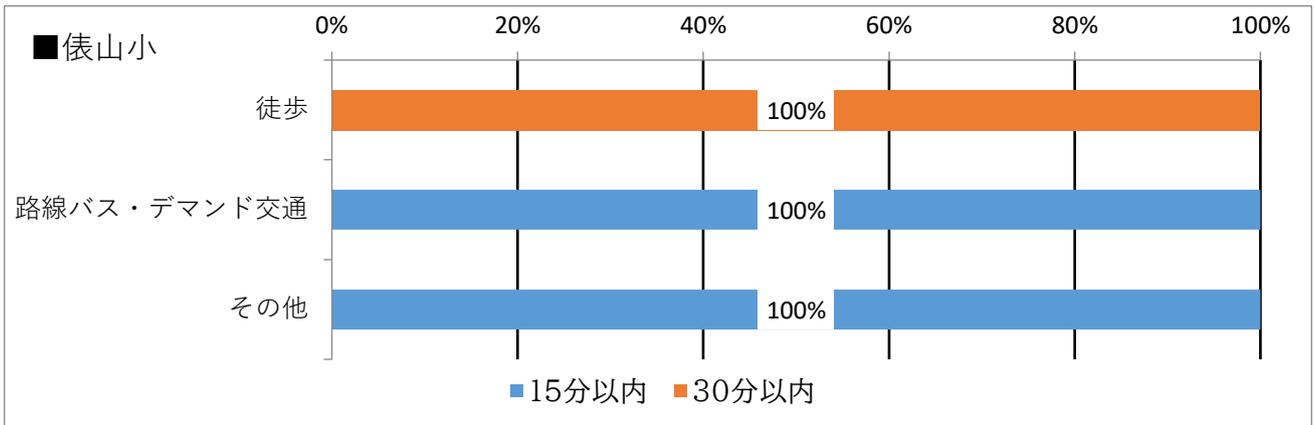
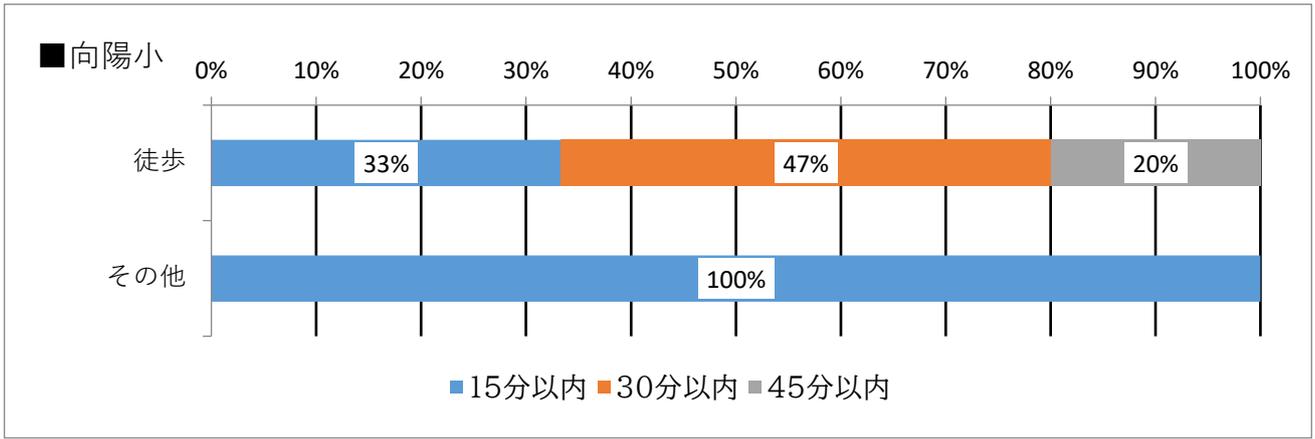
●学校ごと

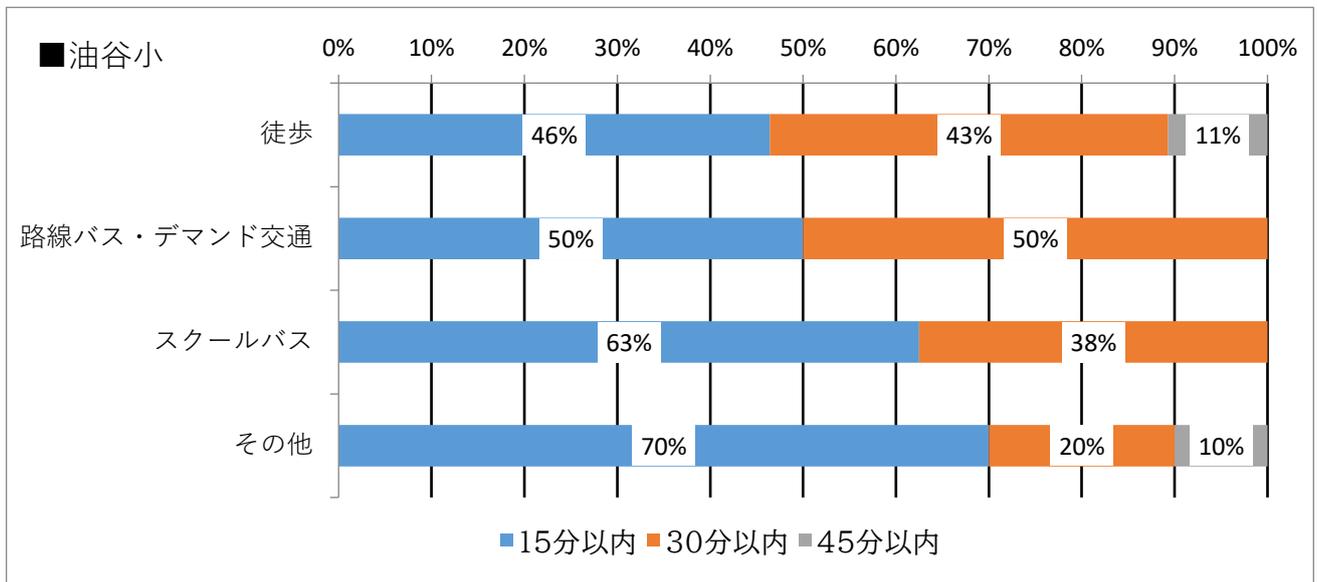
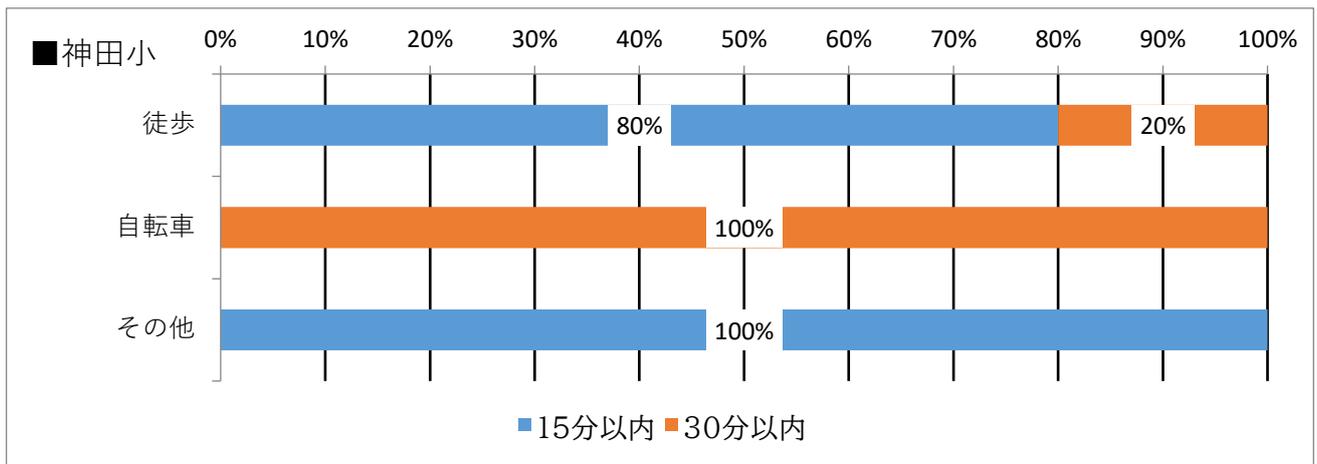
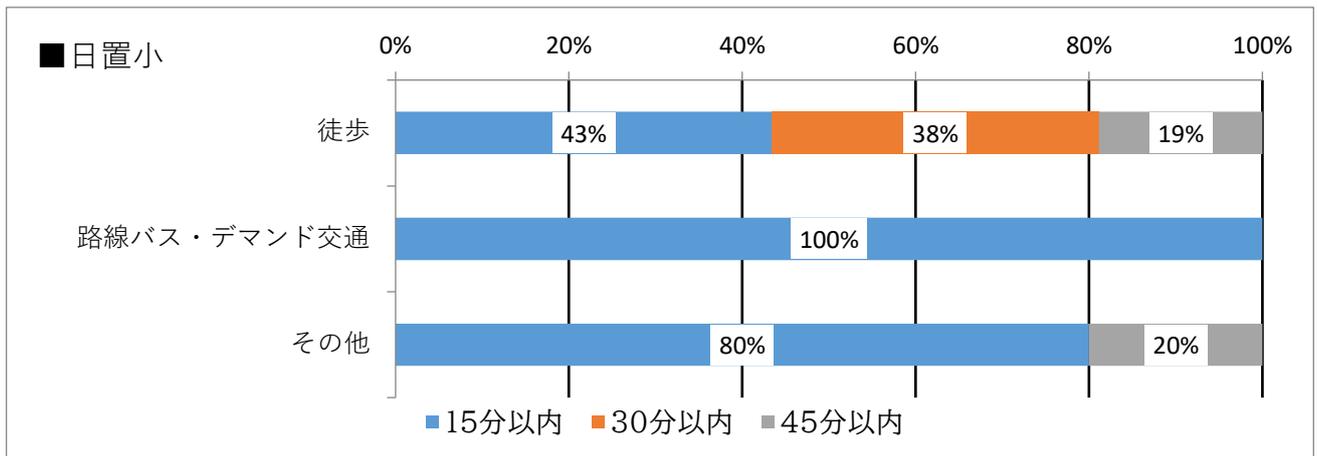
学校の立地や過去の学校統廃合により、通学手段や時間に若干の差異が見られます。明倫小学校は、校区が広いことから、『30分以内』の『徒歩』通学が『15分以内』の『徒歩』通学の数を上回っています。校区の狭い仙崎小学校や浅田小学校は、『徒歩・15分以内』の割合が高く、比較的通学負担の少ない地区と言えます。また、過去に統廃合が多く行われた油谷小学校においては、『スクールバス』の割合が高くなっています。

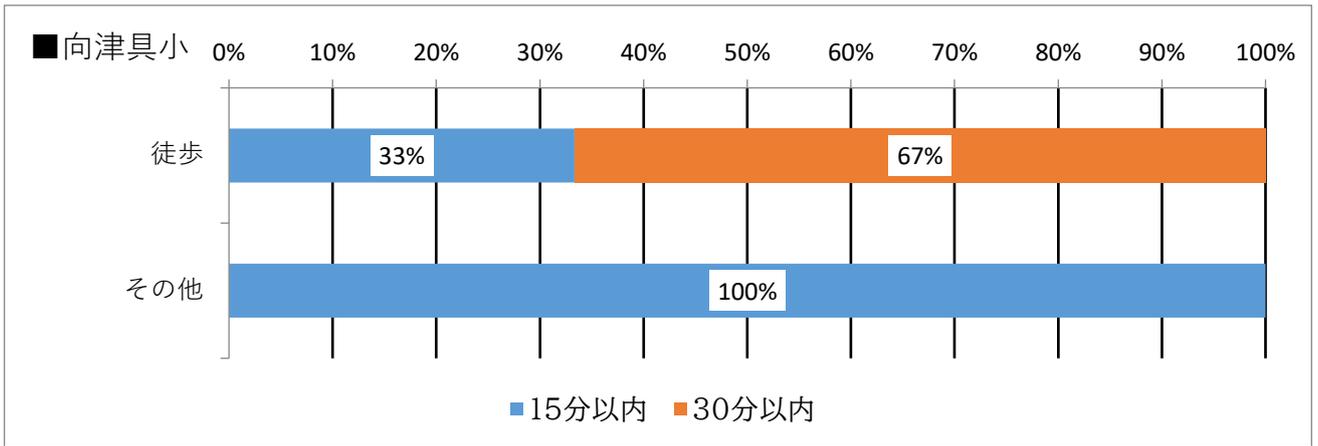
学校名	交通手段	15分以内	30分以内	45分以内	その他	計	合計
通小	徒歩		2			2	3
	その他		1			1	
仙崎小	徒歩	47	18	1		66	72
	スクールバス	2	1			3	
	その他	2	1			3	
深川小	徒歩	71	72	30	1	174	194
	路線バス・デマンド交通	1	6	3		10	
	スクールバス	5	4			9	
	その他	1				1	
向陽小	徒歩	5	7	3		15	18
	その他	3				3	
俵山小	徒歩		1			1	9
	路線バス・デマンド交通	5				5	
	その他	3				3	
明倫小	徒歩	22	24	7	2	55	64
	路線バス・デマンド交通	5	3			8	
	スクールバス	1				1	
浅田小	徒歩	13	6	1		20	22
	自転車	1				1	
	その他	1				1	
日置小	徒歩	23	20	10		53	64
	路線バス・デマンド交通	6				6	
	その他	4		1		5	
神田小	徒歩	4	1			5	7
	自転車		1			1	
	その他	1				1	
油谷小	徒歩	13	12	3		28	56
	路線バス・デマンド交通	1	1			2	
	スクールバス	10	6			16	
	その他	7	2	1		10	
向津具小	徒歩	2	4			6	9
	その他	3				3	
計		262	193	60	3	518	518

・交通手段の「その他」は「自家用車」「保護者送迎」「車+徒歩」など車によるもの

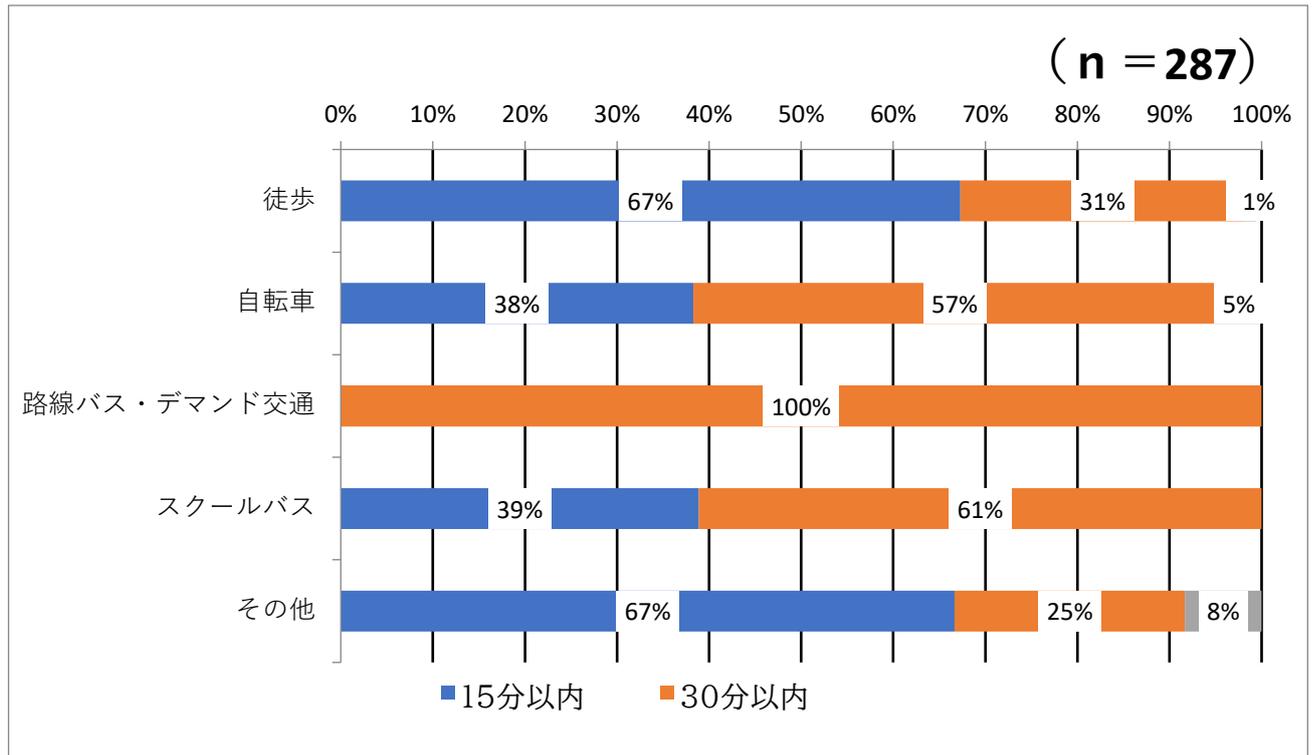








【中学校生徒の状況】



選択項目	15分以内	30分以内	45分以内	その他	計	割合
徒歩	109	50	2	1	162	56.4%
自転車	31	46	4		81	28.2%
路線バス・デマンド交通		2			2	0.7%
スクールバス	7	11			18	6.3%
その他(自家用車、親の送迎)	16	6	2		24	8.4%
計	163	115	8	1	287	

・徒歩の時間「その他」・「低学年だと1時間ぐらい、高学年で40～45分」

現在の通学手段は、『徒歩』が56.4%と最も多く、通学時間も『15分以内』が多数(56.7%)を占めています。

通学時間については、『15分以内』『30分以内』をあわせると96%に達することから、現状は、ほとんどの中学生が30分以内で通学できている状況で、全体としては、通学負担は比較的少ないと言えます。

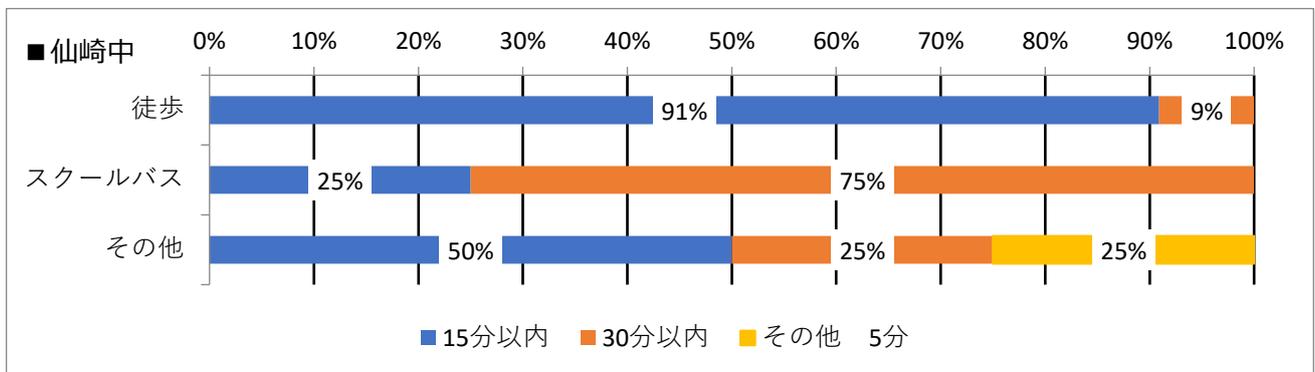
しかしながら、通学手段が『徒歩』や『自転車』で通学時間が『45分以内』との回答も6例あり、特定の地域に居住する生徒には通学に大きな負担がかかっている実態が見て取れます。

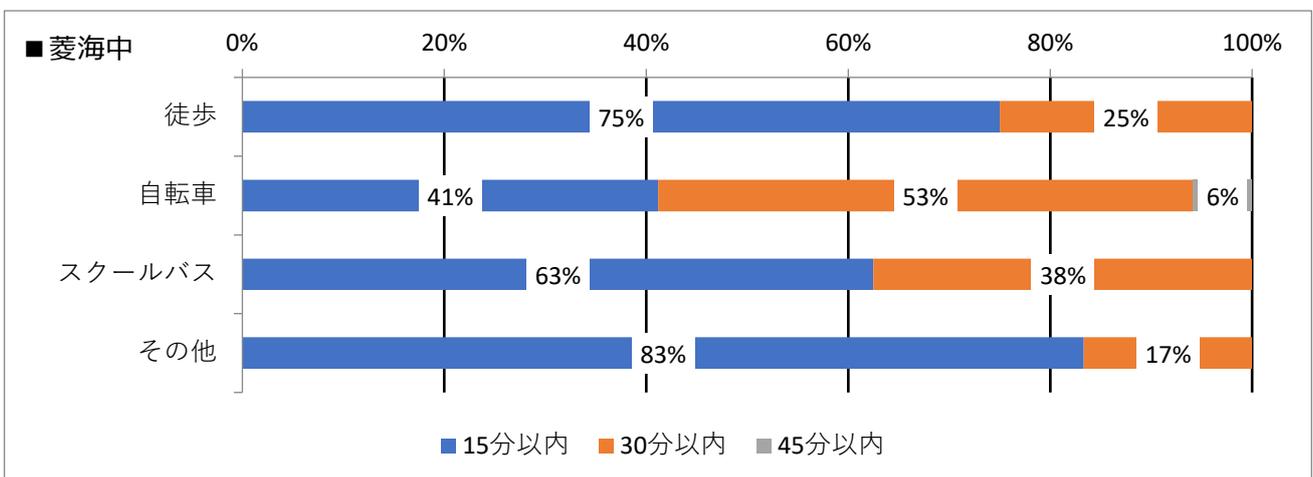
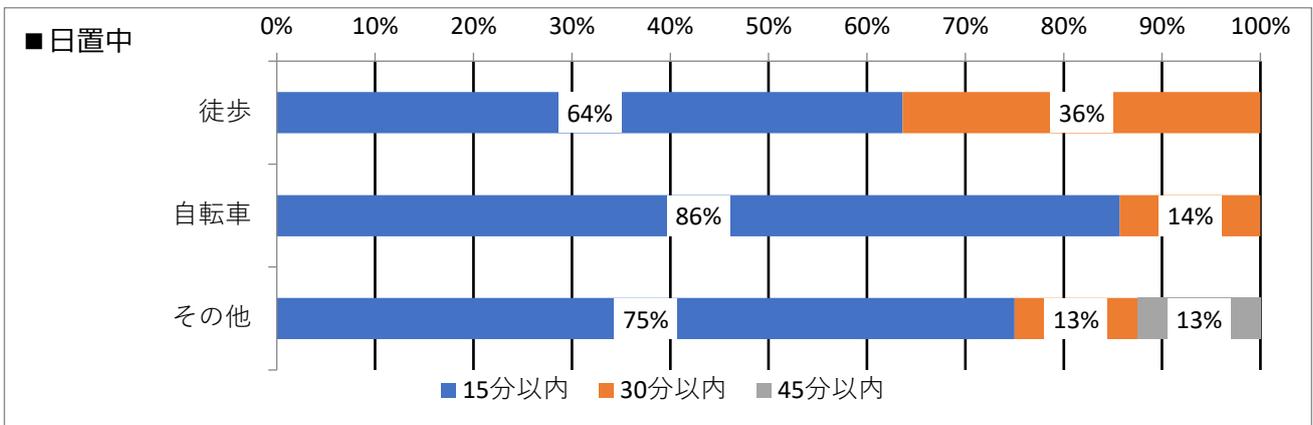
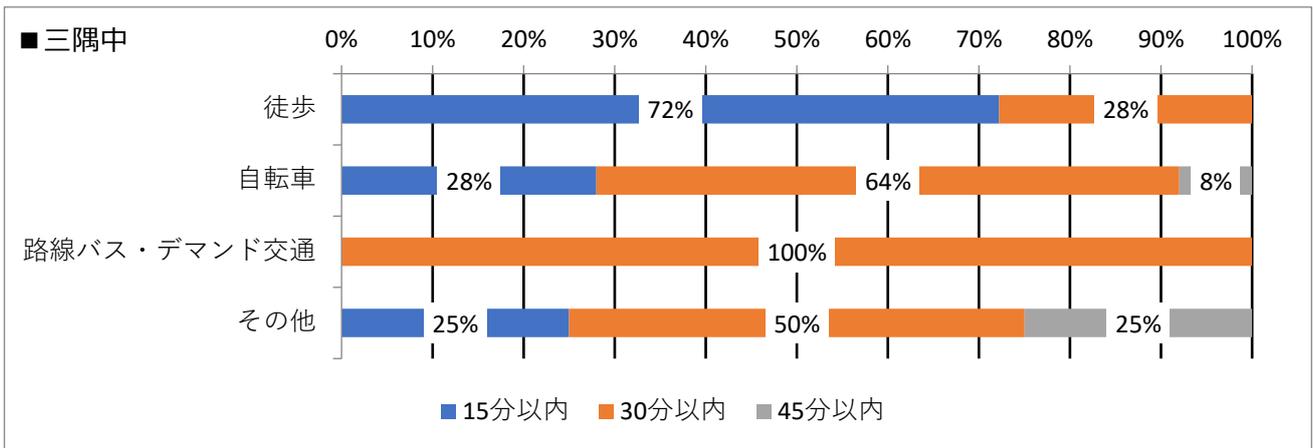
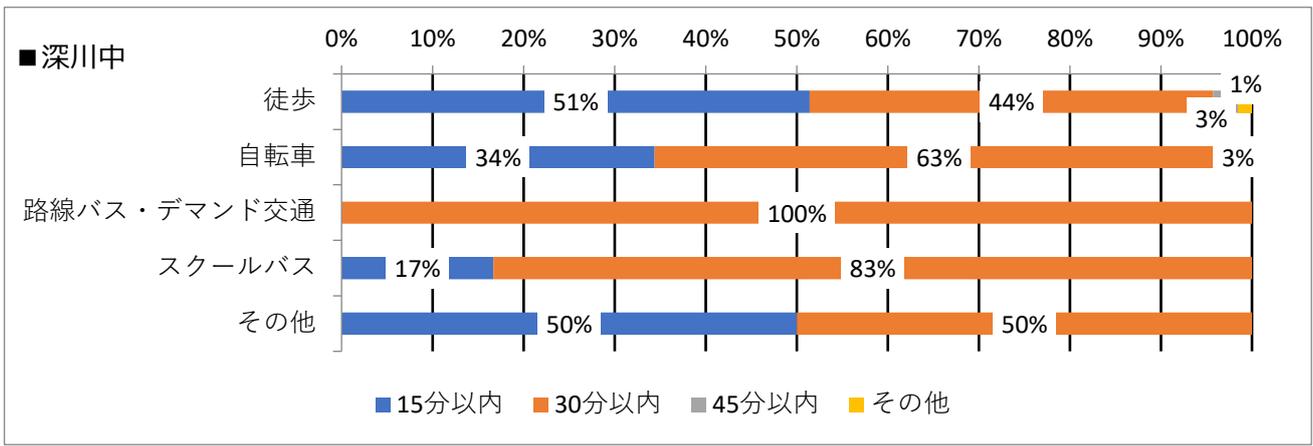
●学校ごと

学校の立地や過去の学校統廃合により、通学手段や時間に若干の差異が見られます。三隅中学校や菱海中学校は、校区が広く、徒歩圏内以外にも居住地が分布していることから、『自転車』通学が『徒歩』通学を上回っています。市街地区域である深川中学校や、校区が比較的狭い仙崎中学校、居住区域が比較的中心部にまとまっていると考えられる日置中学校では、『15分以内』の『徒歩』通学が多くなっています。

学校名	交通手段	15分以内	30分以内	45分以内	その他	計	合計
仙崎中	徒歩	40	4			44	52
	自転車					0	
	スクールバス	1	3			4	
	その他	2	1		1	4	
深川中	徒歩	36	31	2	1	70	111
	自転車	11	20	1		32	
	路線バス・デマンド交通		1			1	
	スクールバス	1	5			6	
	その他	1	1			2	
三隅中	徒歩	13	5			18	48
	自転車	7	16	2		25	
	路線バス・デマンド交通		1			1	
	その他	1	2	1		4	
日置中	徒歩	14	8			22	37
	自転車	6	1			7	
	その他	6	1	1		8	
菱海中	徒歩	6	2			8	39
	自転車	7	9	1		17	
	スクールバス	5	3			8	
	その他	5	1			6	
計		162	115	8	2	287	287

・交通手段の「その他」は「自家用車」「保護者送迎」など車によるもの

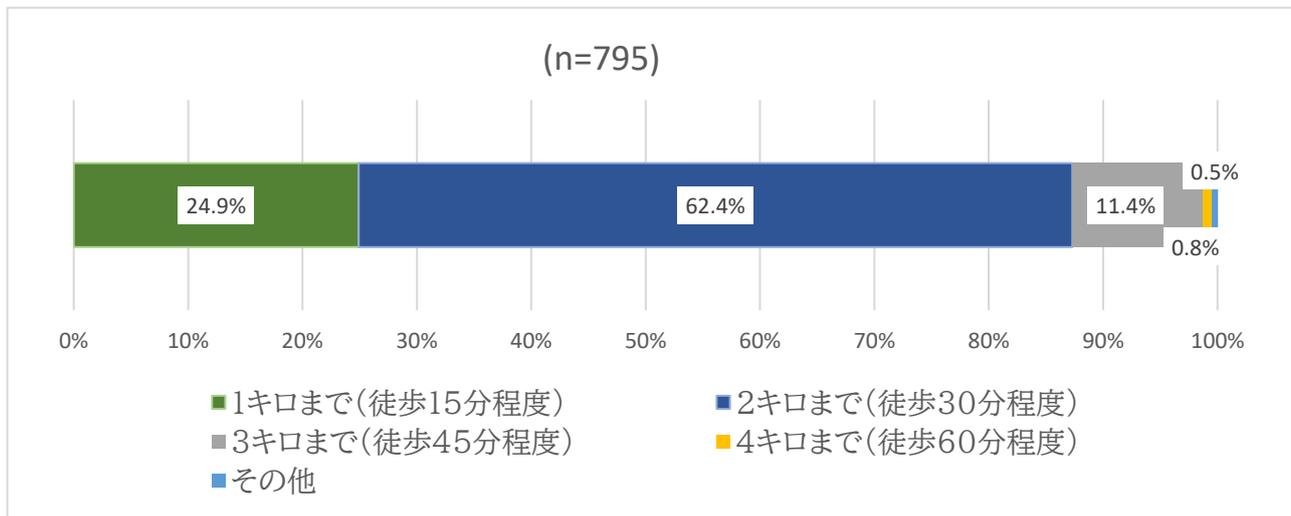




4-2. 望ましい通学距離・時間(問 16, 問 17)

問16 小・中学生の徒歩や自転車による通学距離・時間として、どの程度までが、可能な範囲と思いますか。

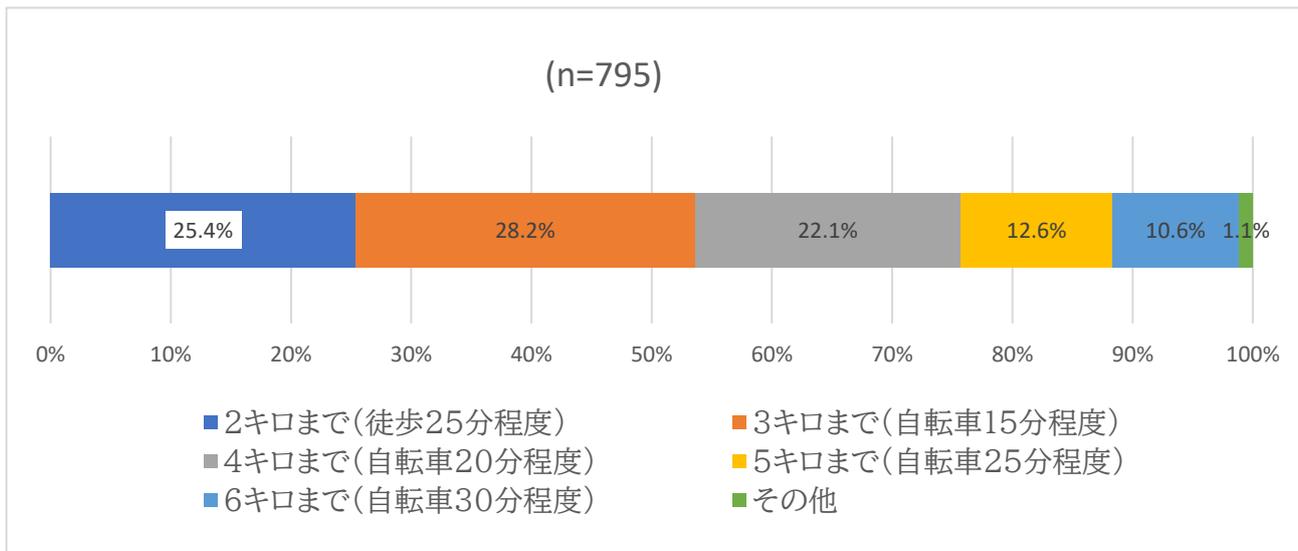
●小学生



選択項目	回答数	割合
1キロまで(徒歩 15 分程度)	198	24.9%
2 キロまで(徒歩 30 分程度)	496	62.4%
3 キロまで(徒歩 45 分程度)	91	11.4%
4 キロまで(徒歩 60 分程度)	6	0.8%
その他	4	0.5%
計	795	

小学生の通学時間については、『2km まで(徒歩 30 分程度)』の回答が最も多く、次に『1km まで(徒歩 15 分程度)』が続きました。この結果は、多くの保護者が、小学生にとって無理のない通学時間を 30 分以内と考えていることを示唆しています。

●中学生



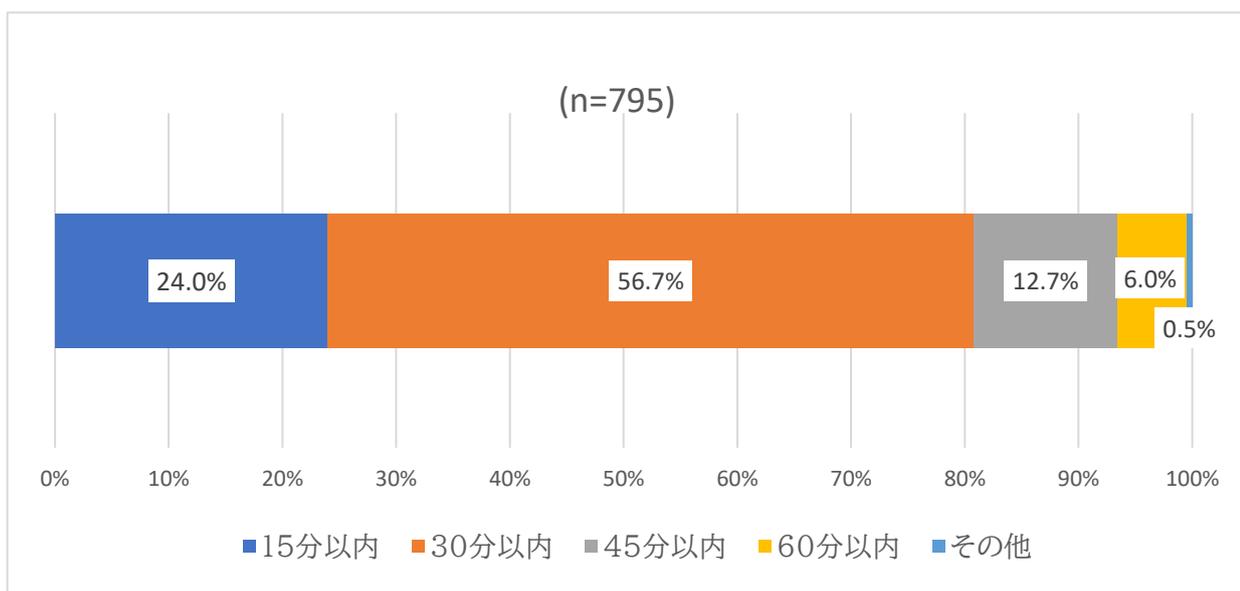
選択肢	回答数	割合
2キロまで(徒歩 25 分程度)	202	25.4%
3キロまで(自転車 15 分程度)	224	28.2%
4キロまで(自転車 20 分程度)	176	22.1%
5キロまで(自転車 25 分程度)	100	12.6%
6キロまで(自転車 30 分程度)	84	10.6%
その他	9	1.1%
計	795	

中学生の自転車通学について、『3km まで』を望ましい通学距離とする回答が最も多く集まりました。

また、『4km まで』を許容範囲とする回答もほぼ同等の割合を占めており、自転車通学であれば、ある程度の距離であっても許容範囲であると認識されていることが分かります。

問17 路線バス・デマンド交通・スクールバス等の手段が利用できる場合、通学時間としてどのくらいまでが可能な範囲と思いますか。

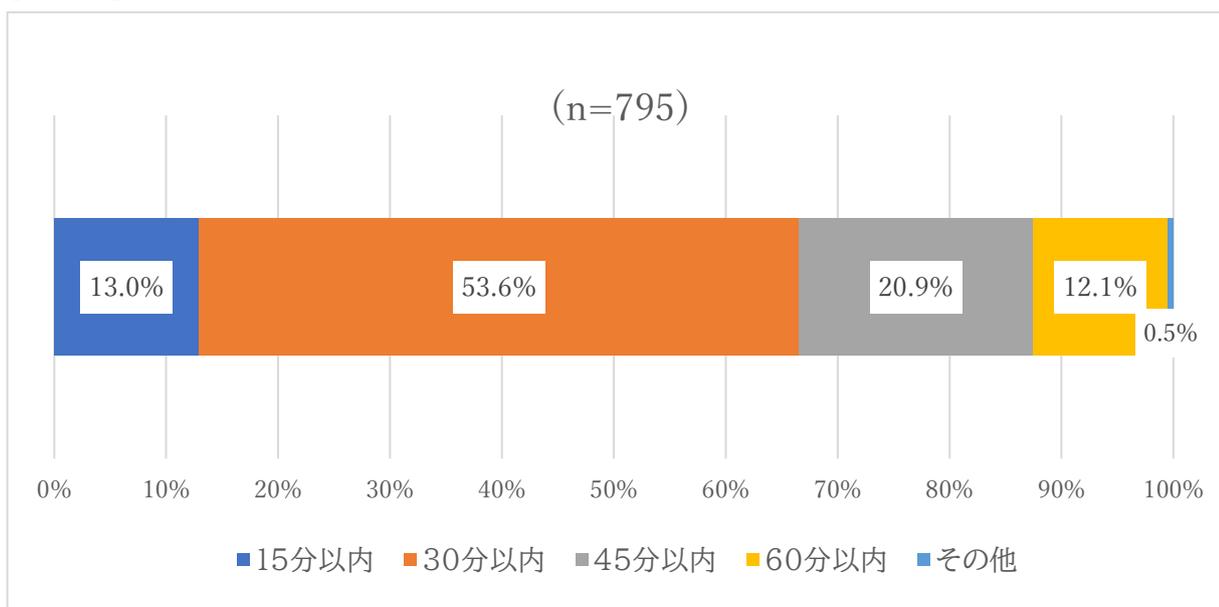
【小学生】



スクールバス等による通学の場合、『30分以内』の回答は56.7%で、依然として最も高い割合を占めました。徒歩通学の場合の『30分程度』(62.4%)と比較すると若干減少しており、代わりに『45分以内』の回答が12.7%に増加したものの、その差はわずかです。

この結果から、小学生の通学時間については、スクールバス等の負担の少ない移動手段であっても、学業や生活への影響を考慮し、30分以内を許容範囲とする考え方が依然として主流であると推察されます。

【中学生】



中学生の通学時間について、『自転車で30分程度』までを選択した人が全体の99%でしたが、スクールバス等の場合は、『45分以内』の回答が20%に達しています。

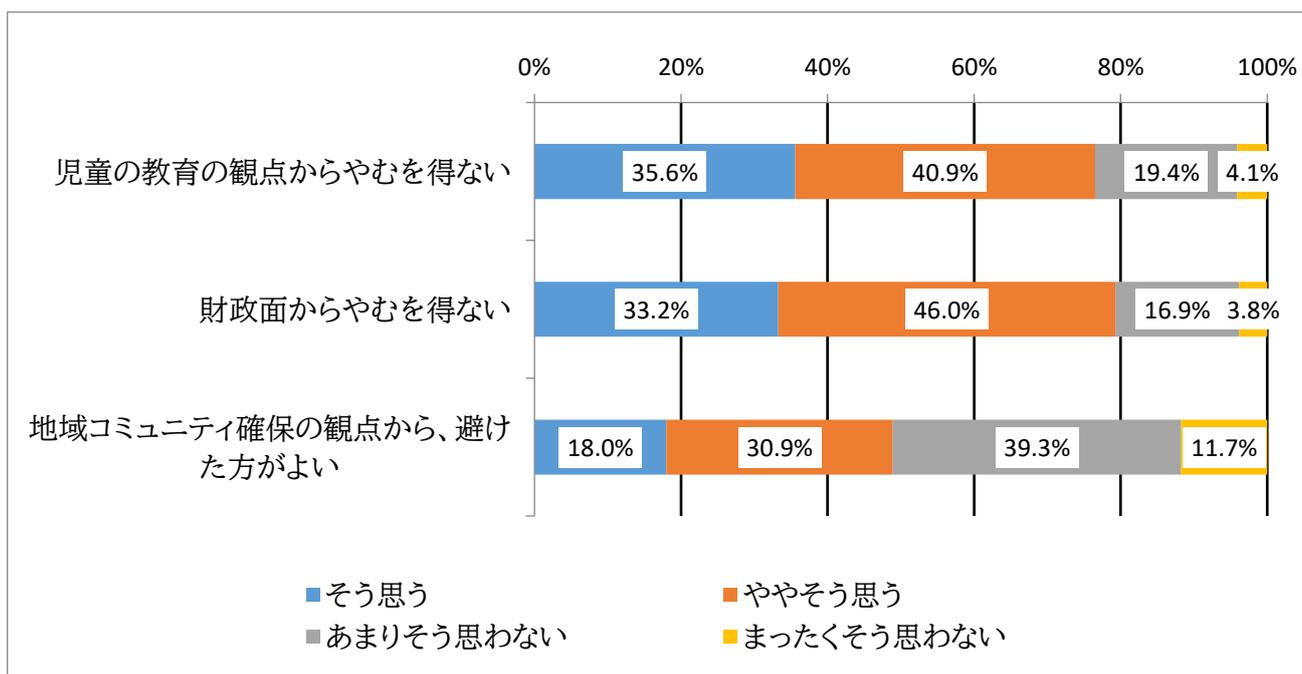
中学生においては、体力的な負担が少ないスクールバス等の利用を前提とすることで、通学時間が多少長くても許容できると考える人も多いことがうかがえます。

4-3. 広域的な学校統合に対する意識(問 18, 問 19)

問18 小学校において広域的な学校統合を行うことについて、各項目につき、あなたのお考えに近いものをお選びください。

問 19 中学校において広域的な学校統合を行うことについて、各項目につき、あなたのお考えに近いものをお選びください。

■問18 小学校



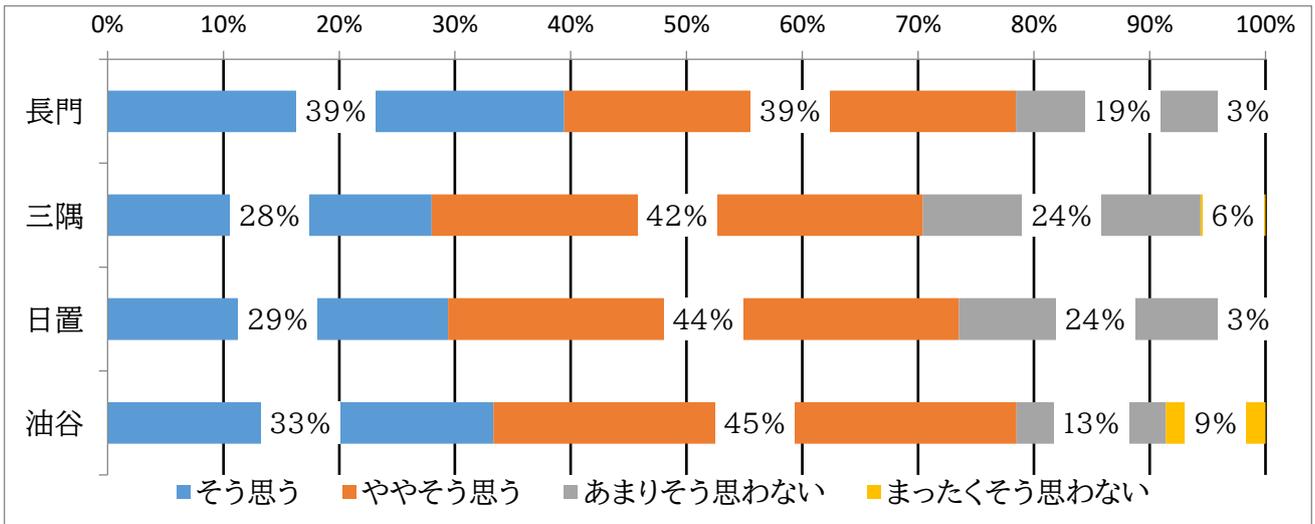
項目	選択肢	個数	割合
児童の教育の観点からやむを得ない	そう思う	279	35.6%
	ややそう思う	321	40.9%
	あまりそう思わない	152	19.4%
	まったくそう思わない	32	4.1%
財政面からやむを得ない	そう思う	260	33.2%
	ややそう思う	360	45.9%
	あまりそう思わない	132	16.8%
	まったくそう思わない	30	3.8%
地域コミュニティ確保の観点から、避けた方がよい	そう思う	141	18.0%
	ややそう思う	242	30.9%
	あまりそう思わない	308	39.3%
	まったくそう思わない	92	11.7%

広域的な統合について、財政面から『そう思う』『ややそう思う』と考える人の割合が高く、あわせて8割近くになっています。教育の観点からやむを得ないと考える人の割合も同様に高くなっています。

一方で『地域コミュニティの観点から、統合を避けた方がよいか』という質問に対しては、『あまりそう思わない』が最も高いものの、『そう思う』『ややそう思う』あわせて5割近くあり、小学校においては、地域への影響を懸念する声も多いことが分かります。

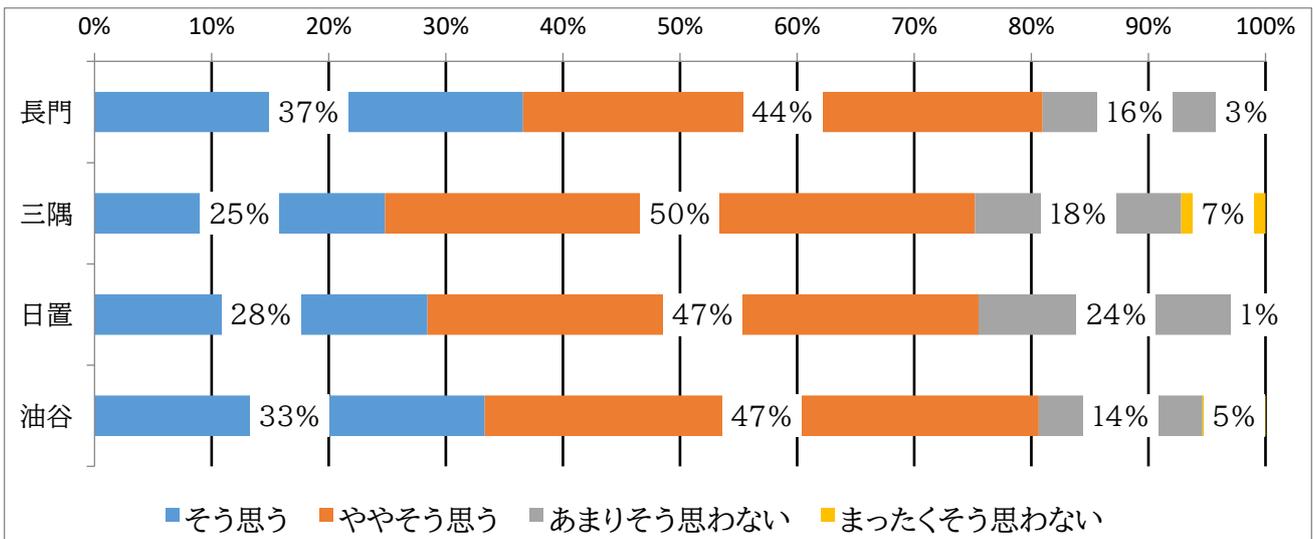
●地区ごと

【児童の教育の観点からやむを得ない】



地域別の回答を見ると、教育面から広域統合に理解を示す割合(『そう思う』『ややそう思う』の合計)は、長門地区と油谷地区が同率で最も高い結果となりました。一方で、油谷地区は『まったくそう思わない』と回答した割合も他地区より高く、地域内で賛否が分かれている傾向が見られます。

【財政面からやむを得ない】

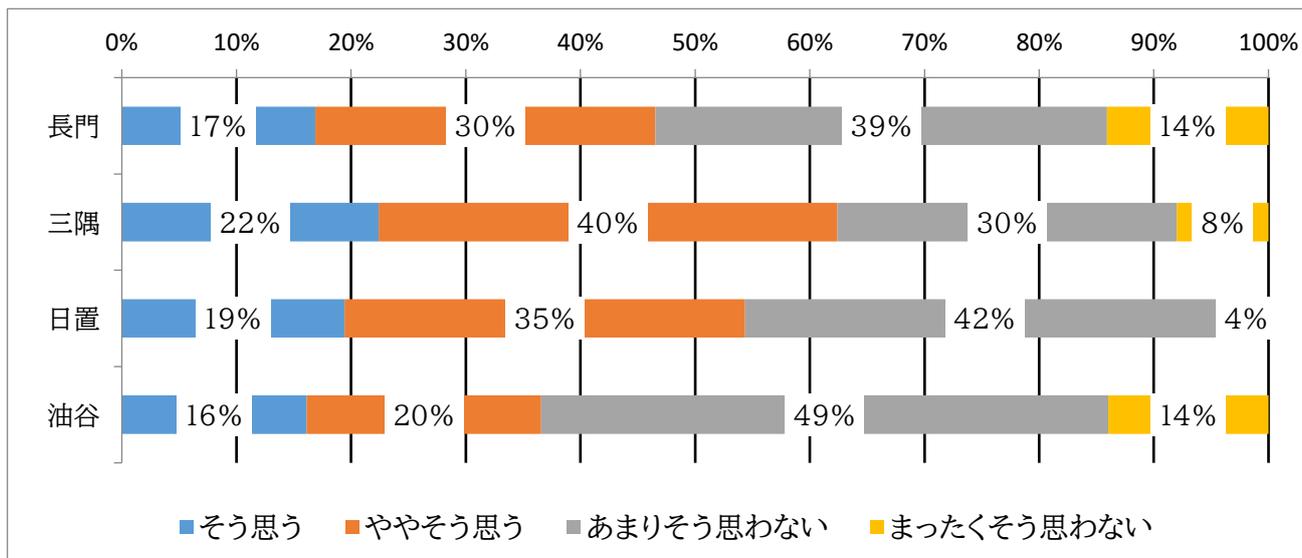


地域別の回答を見ると、財政面から広域統合に理解を示す割合(『そう思う』『ややそう思う』の合計)は、長門地区と油谷地区で8割を超え、高い結果となりました。

一方で、三隅地区は『そう思う』『ややそう思う』の合計が最も低く、さらに『まったくそう思わない』と回答した割合が他地区より高い傾向が見られます。

これは、教育の観点から広域統合への賛成割合も最も低かったことと合わせ、三隅地区の保護者が他地区と比較して、広域統合に対しやや抵抗感を持たれていることが分かります。

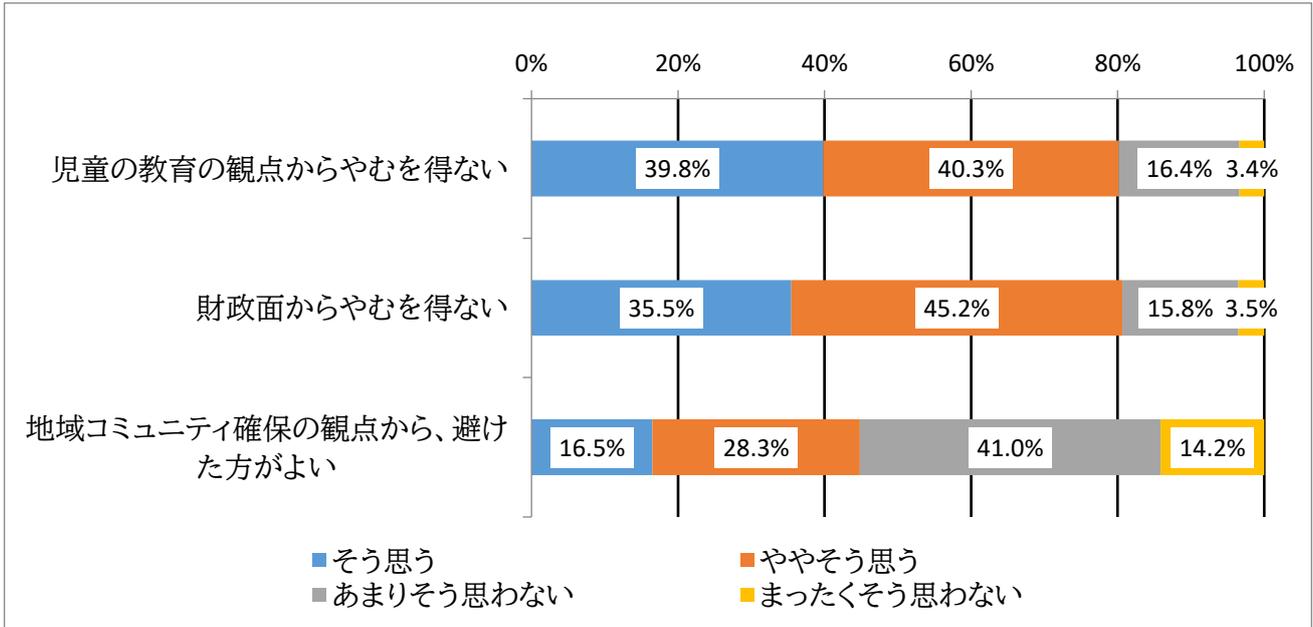
【地域コミュニティ確保の観点から、避けた方がよい】



地域別の回答を見ると、地域コミュニティの観点から広域統合を避けるべきという意見(『そう思う』『ややそう思う』の合計)は、三隅地区で64%と過半数を大きく超え、日置地区でも半数を超える結果となりました。このことから、両地区では残りの2地区と比べ、比較的多くの保護者が地域コミュニティの維持を意識していることがわかります。

一方、油谷地区では、この割合が36%と最も低く、『まったくそう思わない』という回答も高く出ています。これは油谷地区の保護者が、広域統合と地域コミュニティの維持を切り離して考えており、広域統合の是非を判断する上では、主要な判断材料とはしていない傾向を示していると考えられます。

■問 19 中学校



項目	選択肢	個数	割合
生徒の教育の観点からやむを得ない	そう思う	305	39.8%
	ややそう思う	309	40.3%
	あまりそう思わない	126	16.4%
	まったくそう思わない	26	3.4%
財政面からやむを得ない	そう思う	271	35.4%
	ややそう思う	345	45.0%
	あまりそう思わない	121	15.8%
	まったくそう思わない	27	3.5%
地域コミュニティ確保の観点から、避けた方がよい	そう思う	126	16.4%
	ややそう思う	216	28.2%
	あまりそう思わない	313	40.9%
	まったくそう思わない	108	14.1%

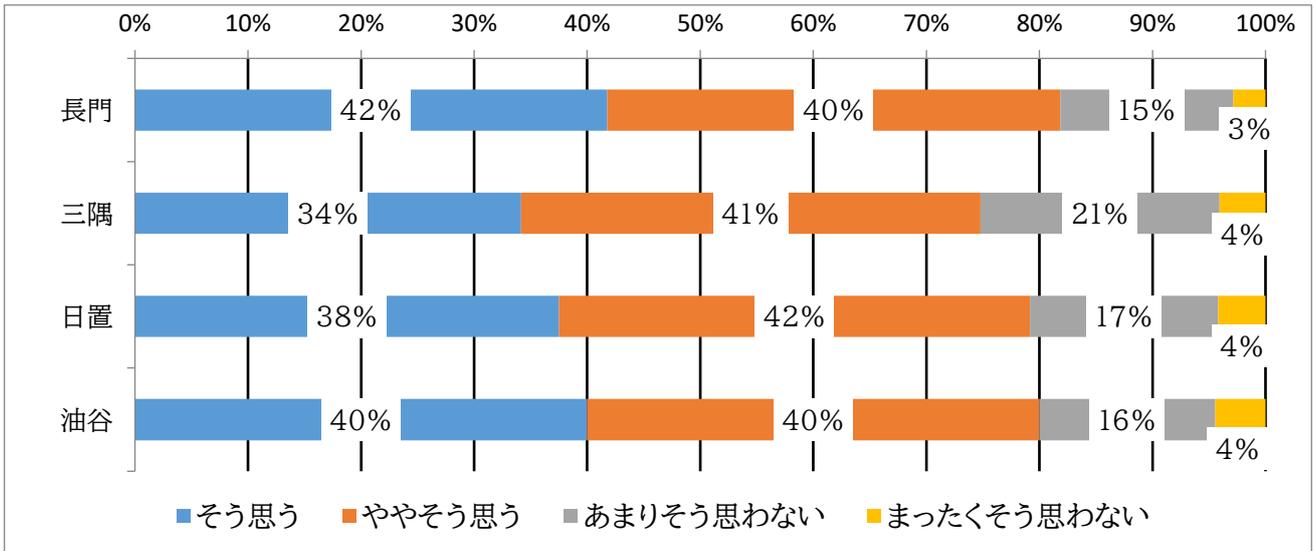
学校の広域統合について、教育環境や財政面からの統合に対しては、『そう思う』『ややそう思う』と回答した割合がいずれも8割を超え、多数を占めました。

一方で、『地域コミュニティ確保の観点から避けた方がよい』という意見も、『そう思う』『ややそう思う』を合わせて45%程度と根強くあり、統合が地域に与える影響を懸念する声も多くあることが分かります。

しかし、この割合は小学校に関する回答よりは若干低く、中学校においては、小学校に比べて広域的な統合への容認度が比較的高いと言えます。

●地区ごと

【生徒の教育の観点からやむを得ない】

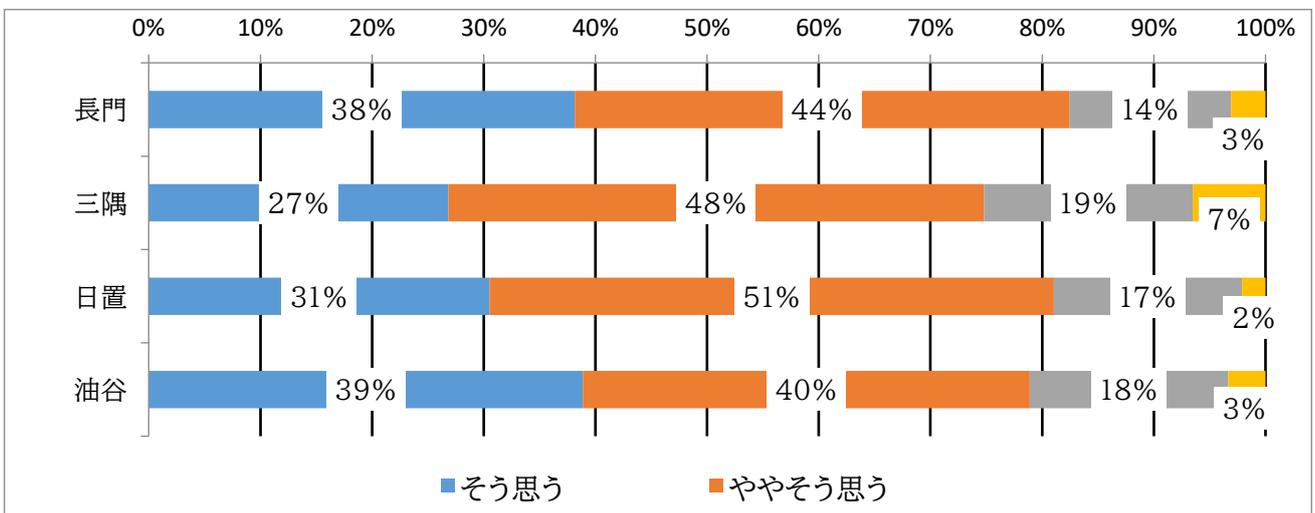


地域別の回答を見ると、教育の観点から広域統合に理解を示す保護者の割合(『そう思う』『ややそう思う』の合計)は、長門地区と油谷地区で8割に達し、高い結果となりました。三隅地区も、小学校に比べれば『そう思う』『ややそう思う』の合計が5ポイント増えています。

また、油谷地区においては、小学校のアンケートと比較すると、『まったくそう思わない』という否定的な回答が減少しています。

中学校の全体的な傾向として、教育の観点からは、広域統合への抵抗感が比較的少ないと言えます。

【財政面からやむを得ない】

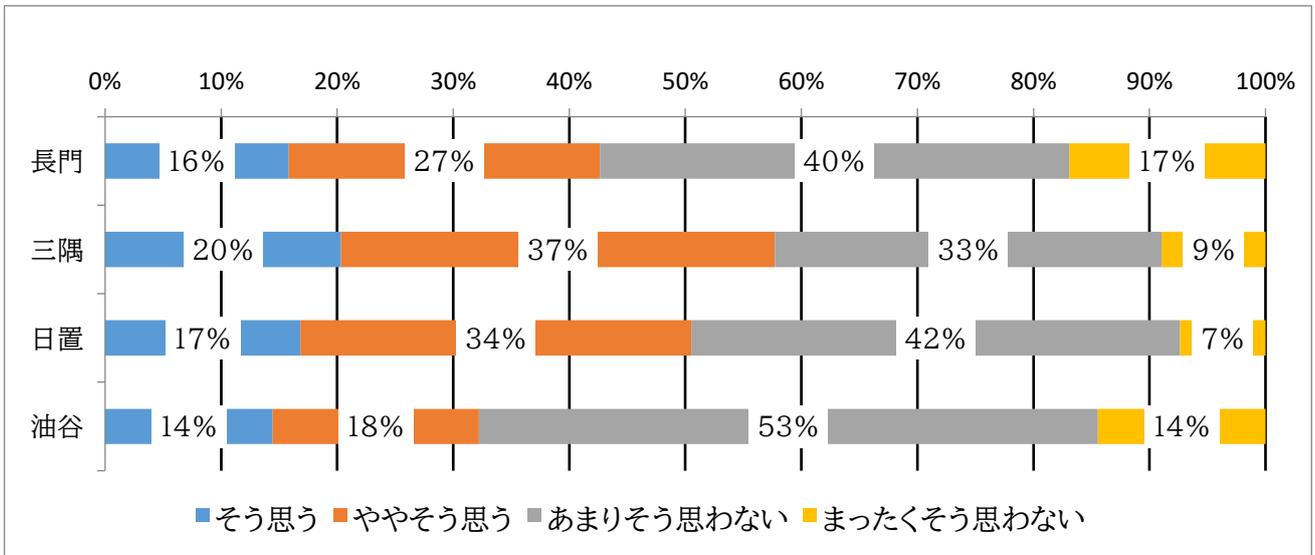


地域別の回答を見ると、財政面から広域統合に理解を示す割合(『そう思う』『ややそう思う』の合計)は、長門地区と日置地区で8割を超え、高い結果となりました。

一方で、三隅地区は小学校と同様、『そう思う』『ややそう思う』の合計が最も低く、さらに『まったくそう思わない』と回答した割合が他地区よりやや高くなっています。

小学校と同様、教育の観点からの広域統合への賛成割合も最も低かったことと合わせ、三隅地区については、他地区と比較して、広域統合に対し若干否定的な傾向が見られます。

【地域コミュニティ確保の観点から、避けた方がよい】



地域別の回答を見ると、概ね小学校と同様の傾向を示しました。

三隅地区では、小学校より減少したものの、地域コミュニティの観点から広域統合を避けるべきという意見(『そう思う』『ややそう思う』の合計)は、62 %と過半数を大きく超え、日置地区でも同様に、小学校より3ポイント減少したものの依然半数を超える結果となりました。

油谷地区では、この割合が32%と最も低く、『まったくそう思わない』という回答も高く出ています。

5. 自由記述（問 20 より）

問 20 自由記述 そのほか、子どもたちに最善の教育環境を持続的に提供するため、学校の規模や配置について保護者の皆様のご意見があれば、お聞かせください。

本アンケートは、選択式の設問に加え、自由記述欄を設けることで、保護者の皆様から率直かつ具体的なご意見を幅広く頂戴しました。これらの記述は、学校のあり方を考える上で、単なる賛否だけでは測れない多角的な視点や、深い思いを読み取る上で非常に重要な情報であり、今後の議論の土台として不可欠なものと考えています。

意見の詳細は別冊をご覧ください。

6. まとめ

本調査により、保護者は『学力向上』や『社会性育成(人間関係や社会のルールやマナー等)』を学校に強く求めていることが明らかになりました。

また、学校統合については教育面、財政面からやむを得ないとする声が多い一方で、小規模校のメリット消失や地域コミュニティの希薄化を懸念していることも分かりました。

今後の学校のあり方の検討においては、これらの意見を踏まえ、目指すべき教育環境について、具体的な検討を進めてまいります。